令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
第1部 港湾土木 請負工事積算基準 目次-3	４．５　鋼矢板式 １．総則 ---------- 3-4.5- 1 ２．鋼矢板工 ---------- 3-4.5- 5 ３．控工 ---------- 3-4.5-22 参考資料 参考資料－１　鋼矢板打設（Ｕ形矢板、組合せ矢板） 参考資料－２　鋼矢板打設（ディーゼルハンマ） 参考資料－３　受杭打設（木杭） 補足資料 補足資料－１　本体工（鋼矢板式、鋼杭式共通） ４．６　鋼杭式 １．総則 ---------- 3-4.6- 1 ２．鋼杭工 ---------- 3-4.6- 3 参考資料 参考資料－１　鋼杭打設（Ｈ形鋼杭） 参考資料－２　鋼杭打設（ディーゼルハンマ）	４．５　鋼矢板式 １．総則 ---------- 3-4.5- 1 ２．鋼矢板工 ---------- 3-4.5- 5 ３．控工 ---------- 3-4.5-22 参考資料 参考資料－１　鋼矢板打設（Ｕ形矢板、組合せ矢板） 参考資料－２　受杭打設（木杭） 補足資料 補足資料－１　本体工（鋼矢板式、鋼杭式共通） ４．６　鋼杭式 １．総則 ---------- 3-4.6- 1 ２．鋼杭工 ---------- 3-4.6- 3 参考資料 参考資料－１　鋼杭打設（Ｈ形鋼杭）	記載の削除 項番号の修正
目次-4	８節　消波工 付属資料 付属資料－１　消波根固ブロック型式一覧	８節　消波工 付属資料 付属資料－１　ブロック型式一覧	誤植の修正
目次-5	１１節　陸上地盤改良工 １．総則 ---------- 3-11- 1 ２．圧密・排水工 ---------- 3-11- 5 ３．締固工 ---------- 3-11-12 ４．固化工 ---------- 3-11-14 参考資料 参考資料－１　陸上深層混合処理杭 参考資料－２　陸上継足式深層混合処理杭 参考資料－３　ペーパードレーン（液状化対策） 参考資料－４　グラベルドレーン 参考資料－５　ロッドコンパクション 参考資料－６　事前混合処理 補足資料 補足資料－１　陸上地盤改良工	１１節　陸上地盤改良工 １．総則 ---------- 3-11- 1 ２．圧密・排水工 ---------- 3-11- 5 ３．固化工 ---------- 3-11-11 参考資料 参考資料－１　陸上深層混合処理杭 参考資料－２　ペーパードレーン（液状化対策） 参考資料－３　グラベルドレーン 参考資料－４　事前混合処理	記載の削除 項番号の修正 頁番号の修正
目次-6	第４章　市場単価等 １．市場単価の調査方法および決定方法 ---------- 4- 1- 1 ２．土木工事標準単価 ---------- 4- 1- 1 ３．用語の定義 ---------- 4- 1- 1 ４．市場単価により積算を行う工種 ---------- 4- 1- 2	第４章　市場単価等 １．適用にあたってのまな留意事項 ---------- 4- 1- 1 ２．市場単価 ---------- 4- 1- 1 ３．土木工事標準単価 ---------- 4- 1- 1 ４．用語の定義 ---------- 4- 1- 1 ５．市場単価により積算を行う工種 ---------- 4- 1- 2	記載の変更 項番号の修正
第1章 総則 1節 総則 P1-1-1	２．適用の範囲 この積算基準は、国土交通省直轄の港湾および海岸土木工事を請負施工する場合における工事費の積算に適用する。 ただし、本基準によることが著しく不適当又は困難であると認められるものについては、適用除外とすることができる。	２．適用の範囲 この積算基準は、国土交通省直轄の港湾および海岸土木工事を請負施工する場合における工事費の積算に適用する。 ただし、本基準はあくまで標準的な施工を前提として設定しているものであり、本基準によることが著しく不適当又は困難であると認められるものについては、適用除外とすることができる。	記載の変更
2節 積算の通則 P1-2-1	１－１　通　則 積算は、工事条件を的確に把握し、設計図書、契約書（案）および積算基準に基づき行うものとする。 なお、この基準により難い場合は、別途類似工事等を参考とする。。 また、積算に使用する作業時間は、原則として昼間（１日当り８時間）とする。ただし、作業条件等により時間外就業等を行うことが常態である場合は、この限りではない。 本基準によることが著しく不適当又は困難であると認められるものについては、適用除外とすることができる。	１－１　通　則 積算は、工事条件を的確に把握し、設計図書、契約書（案）および積算基準に基づき行うものとする。 また、積算に使用する作業時間は、原則として昼間（１日当り８時間）とする。 本基準はあくまで標準的な施工を前提として設定しているものであり、本基準によることが著しく不適当又は困難であると認められるものについては、適用除外とすることができる。 なお、この基準により難い場合は、別途類似工事等を参考とするほか、見積り等も活用し、適切な積算を行うものとする。	記載の変更

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
2節 積算の通則 P1-2-3	7）法定福利費 現場従業員および現場労務者に関する労災保険料、雇用保険料、健康保険料および厚生年金保険料の法定の事業主負担額ならびに建設業退職金共済制度に基づく事業主負担額 8）福利厚生費 現場従業員に係る慰安娯楽、貸与被服、医療、慶弔見舞等福利厚生、文化活動等に要する費用 9）事務用品費 事務用消耗品、新聞、参考図書等の購入費 10）通信交通費 通信費、交通費および旅費 11）交際費 現場への来客等の応対に要する費用 12）補償費 工事施工に伴って通常発生する物件等の毀損の補修費および騒音、振動、濁水、交通騒音等による事業損失に係る補償費（ただし、臨時にして巨額なものは除く） 13）外注経費 工事を専門工事業者等に外注する場合に必要となる経費 14）工事登録に要する費用 工事実績の登録等に要する費用 15）動力・用水光熱費 現場事務所、試験室、労働者宿舎、倉庫及び材料保管庫で使用する電力、用水、ガス等の費用（基本料金を含む。） 16）公共事業労務費調査に要する費用 17）雑費 １）から16）までに属さない諸費	7）法定福利費 現場従業員および現場労務者に関する労災保険料、雇用保険料、健康保険料および厚生年金保険料の法定の事業主負担額 8）建設業退職金共済契約に係る掛金 建設業退職金共済制度に基づく事業主負担額 9）福利厚生費 現場従業員に係る慰安娯楽、貸与被服、医療、慶弔見舞等福利厚生、文化活動等に要する費用 10）事務用品費 事務用消耗品、新聞、参考図書等の購入費 11）通信交通費 通信費、交通費および旅費 12）交際費 現場への来客等の応対に要する費用 13）補償費 工事施工に伴って通常発生する物件等の毀損の補修費および騒音、振動、濁水、交通騒音等による事業損失に係る補償費（ただし、臨時にして巨額なものは除く） 14）外注経費 工事を専門工事業者等に外注する場合に必要となる経費 15）工事登録に要する費用 工事実績の登録等に要する費用 16）動力・用水光熱費 現場事務所、試験室、労働者宿舎、倉庫及び材料保管庫で使用する電力、用水、ガス等の費用（基本料金を含む。） 17）公共事業労務費調査に要する費用 18）雑費 １）から17）までに属さない諸費	記載の変更 項番号の修正
2節 積算の通則 P1-2-4	16）試験研究費償却 新製品または新技術の研究のために特別に支出した費用の償却額 17）開発費償却 新技術または新経営組織の採用、資源の開発、市場の開拓のため特別に支出した費用の償却額 18）租税公課 不動産取得税、固定資産税等の租税および道路占用料、その他の公課 19）保険料 火災保険およびその他の損害保険料 20）契約保証費 契約の保証に必要な費用 21）雑費 電算等経費、社内打合せ等の費用、学会および協会活動等諸団体会費等の費用	16）開発費償却 新技術または新経営組織の採用、資源の開発、市場の開拓のため特別に支出した費用の償却額 17）租税公課 不動産取得税、固定資産税等の租税および道路占用料、その他の公課 18）保険料 火災保険およびその他の損害保険料 19）契約保証費 契約の保証に必要な費用 20）雑費 電算等経費、社内打合せ等の費用、学会および協会活動等諸団体会費等の費用	記載の削除 項番号の修正
第2章 工事費の積算 1節 直接工事費 目次	２－３　直接経費 ２－３－１　特許使用料等 ---- 2-1- 3 ２－３－２　水道・光熱・電力料 ---- 2-1- 4 ２－３－３　船舶・機械器具等損料 ---- 2-1- 4 ２－３－４　提供船舶・機械等経費 ---- 2-1- 4 ２－３－５　燃料消費量等 ---- 2-1- 4 ２－４　市場単価 ---- 2-1- 4 ２－５　供用日数の算定 ２－５－１　船舶の供用日数 ---- 2-1- 4 ２－５－２　機械の供用日数 ---- 2-1- 5 ２－５－３　仮設材等供用日数 ---- 2-1- 5 ２－６　拘束費 ２－６－１　拘束費計上の対象 ---- 2-1- 5 ２－６－２　拘束費の計上方法 ---- 2-1- 5 ２－７　工期の設定 ---- 2-1- 6 ２－８　直接工事費の積算 ２－８－１　単価表 ---- 2-1- 6 ２－８－２　代価表 ---- 2-1- 6 ２－８－３　総括表 ---- 2-1- 6	２－３　歩掛 ---- 2-1- 3 ２－４　直接経費 ２－４－１　特許使用料等 ---- 2-1- 3 ２－４－２　水道・光熱・電力料 ---- 2-1- 4 ２－４－３　船舶・機械器具等損料 ---- 2-1- 4 ２－４－４　提供船舶・機械等経費 ---- 2-1- 4 ２－４－５　燃料消費量等 ---- 2-1- 4 ２－５　市場単価 ---- 2-1- 4 ２－６　供用日数の算定 ２－６－１　船舶の供用日数 ---- 2-1- 4 ２－６－２　機械の供用日数 ---- 2-1- 5 ２－６－３　仮設材等供用日数 ---- 2-1- 5 ２－７　拘束費 ２－７－１　拘束費計上の対象 ---- 2-1- 5 ２－７－２　拘束費の計上方法 ---- 2-1- 5 ２－８　工期の設定 ---- 2-1- 6 ２－９　直接工事費の積算 ２－９－１　単価表 ---- 2-1- 6 ２－９－２　代価表 ---- 2-1- 6 ２－９－３　総括表 ---- 2-1- 6	記載の追記 項番号の修正

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
1節 直接工事費 P2-1-3		**２－３　歩　掛** 歩掛は、工事を施工するために必要な機械・労務・材料に係る費用とし、その算定は積算基準の施工歩掛及び物価資料によるものとする。 積算基準の施工歩掛にない歩掛、適用が著しく不適当又は困難と認められた歩掛や物価資料にない単価については、特別調査又は見積の取得により歩掛の構成を決定する。 見積の場合は、原則として３社以上から徴収し、歩掛の決定方法は、平均的又は最頻度の歩掛を採用する。ただし、変更積算時は施工者より見積を徴収し、妥当性を確認した上で採用する。 なお、単価等については、「２－１　労務費」、「２－２　材料費」及び「２－４　直接経費」によるものとする。	記載の追記
	２－３　直接経費 **２－３－１　特許使用料等**	**２－４　直接経費** **２－４－１　特許使用料等**	項番号の修正
1節 直接工事費 P2-1-4	**２－３－２　水道・光熱・電力料** **２－３－３　船舶・機械器具等損料** **２－３－４　提供船舶・機械等経費** **２－３－５　燃料消費量等** 船舶、機械の主燃料および電力消費量は、下式により求める。 ［運転１日当り燃料（電力）消費量］＝［運転１時間当り燃料（電力）消費量］×［運転時間］ （小数１位四捨五入） ［運転１時間当り燃料（電力）消費量］＝［燃料（電力）消費率（雑品含む）］×［機関出力］ （作業船は小数２位四捨五入） （陸上機械は有効数字**３位四捨五入**） **２－４　市場単価** **２－５　供用日数の算定** **２－５－１　船舶の供用日数**	**２－４－２　水道・光熱・電力料** **２－４－３　船舶・機械器具等損料** **２－４－４　提供船舶・機械等経費** **２－４－５　燃料消費量等** 船舶、機械の主燃料および電力消費量は、下式により求める。 ［運転１日当り燃料（電力）消費量］＝［運転１時間当り燃料（電力）消費量］×［運転時間］ （小数１位四捨五入） ［運転１時間当り燃料（電力）消費量］＝［燃料（電力）消費率（雑品含む）］×［機関出力］ （作業船は小数２位四捨五入） （陸上機械は有効数字**の第３位を四捨五入し、有効数字２桁とする**） **２－５　市場単価** **２－６　供用日数の算定** **２－６－１　船舶の供用日数**	項番号の修正 端数処理を追加
1節 直接工事費 P2-1-5	**２－５－２　機械の供用日数** **２－５－３　仮設材等供用日数** 仮設材等の供用日数＝基本日数×Ｍ＋搬入・搬出日数 Ｍ：陸上施工の場合；1.65 海上施工の場合；α（船舶供用係数、**「２－５－１　船舶の供用日数」**参照） **２－６　拘束費** **２－６－１　拘束費計上の対象** 工事の施工に際し、作業の種類や現場条件に応じて拘束が発生する場合は、拘束費を計上する。 ここでいう拘束とは、作業船舶・機械の主目的作業の前後および途中で副次的に発生する付帯作業、または発注者・請負者双方の責によらず発生する待機状態をいい、主目的の施工歩掛の代価表の供用日数（「２－５－１船舶の供用日数」参照）や、回航・えい航中の供用日数に含まれない状態をいう。 **２－６－２　拘束費の計上方法** １）計上費目 拘束費は、直接工事費に計上する。 ２）対象日数 **「第３章　直接工事費の施工歩掛」**に定めのある場合は、その日数を拘束費計上の対象日数とする。 **「２－６－１　拘束費計上の対象**、２）現場条件による拘束**」**の場合、拘束費計上対象日数は現場条件に応じて適正に定めるものとする。この場合の対象日数は、原則として日単位とする。 ３）対象経費 **「第３章　直接工事費の施工歩掛」**に定めのある場合は、その経費を拘束費計上の対象とする。 定めのない場合の拘束費の計上対象経費は、原則として対象となる作業船の供用損料、および作業船に係る労務費とする。	**２－６－２　機械の供用日数** **２－６－３　仮設材等供用日数** 仮設材等の供用日数＝基本日数×Ｍ＋搬入・搬出日数 Ｍ：陸上施工の場合；1.65 海上施工の場合；α（船舶供用係数、**「２－６－１　船舶の供用日数」**参照） **２－７　拘束費** **２－７－１　拘束費計上の対象** 工事の施工に際し、作業の種類や現場条件に応じて拘束が発生する場合は、拘束費を計上する。 ここでいう拘束とは、作業船舶・機械の主目的作業の前後および途中で副次的に発生する付帯作業、または発注者・請負者双方の責によらず発生する待機状態をいい、主目的の施工歩掛の代価表の供用日数（「２－６－１船舶の供用日数」参照）や、回航・えい航中の供用日数に含まれない状態をいう。 **２－７－２　拘束費の計上方法** １）計上費目 拘束費は、直接工事費に計上する。 ２）対象日数 ①**「第３章　直接工事費の施工歩掛」**に定めのある場合は、その日数を拘束費計上の対象日数とする。 ②**「２－７－１　拘束費計上の対象**、２）現場条件による拘束**」**の場合、拘束費計上対象日数は現場条件に応じて適正に定めるものとする。この場合の対象日数は、原則として日単位とする。 ３）対象経費 ①**「第３章　直接工事費の施工歩掛」**に定めのある場合は、その経費を拘束費計上の対象とする。 ②定めのない場合の拘束費の計上対象経費は、原則として対象となる作業船の供用損料、および作業船に係る労務費とする。	項番号の修正 記載の変更

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>1節 直接工事費
P2-1-6</td><td>２－７　工期の設定
工期の設定に当っては、以下の日数を考慮し、適切に定めるものとする。
①　運転日
②　日曜・祝祭日、土曜日、夏季休暇、年末・年始休暇
③　荒天日
④　作業船の回航・えい航・艤装
⑤　工程上の待ち
⑥　現場整備
⑦　材料手配（需給が逼迫している資材を使用する工事については余裕工期）
⑧　関係官公庁への諸手続き、第三者への工事説明
⑨　工事用地等の確保に要する期間
⑩　準備・跡片付け

２－８　直接工事費の積算
２－８－１　単価表

２－８－２　代価表

２－８－３　総括表</td><td>２－８　工期の設定
工期の設定に当っては、以下の日数を考慮し、適切に定めるものとする。
①　運転日
②　日曜・祝祭日、土曜日、夏季休暇、年末・年始休暇
③　荒天日
④　作業船の回航・えい航・艤装
⑤　工程上の待ち
⑥　現場整備
⑦　材料手配（需給が逼迫している資材を使用する工事については余裕工期）
⑧　関係官公庁への諸手続き、第三者への工事説明
⑨　工事用地等の確保に要する期間
⑩　準備・跡片付け
⑪　猛暑日

２－９　直接工事費の積算
２－９－１　単価表

２－９－２　代価表

２－９－３　総括表</td><td>項番号の修正

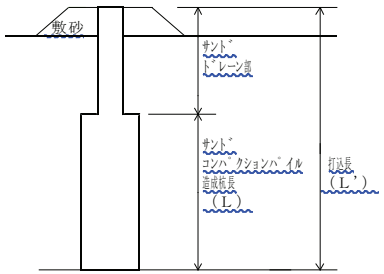
記載の追記</td></tr>
<tr><td>1節 直接工事費
付属資料－１
作業能力等
P2-1-(10)</td><td>６）ラフテレーンクレーン
（1）作業形態と諸元
<table><tr><th>クレーン規格</th><th>ｱｳﾄﾘｶﾞｰ
位置（Ｉ）</th><th>最大ﾌﾞｰﾑ
長　さ</th><th>ﾌﾞｰﾑ支点
高さ(H)</th></tr><tr><td>(油)　16　t吊</td><td>2.6m</td><td>24.1m</td><td rowspan="8">2.5m</td></tr><tr><td>〃　20　〃</td><td>3.1〃</td><td>30.5〃</td></tr><tr><td>〃　25　〃</td><td>3.4〃</td><td>29.8〃</td></tr><tr><td>〃　35　〃</td><td>3.6〃</td><td>29.2〃</td></tr><tr><td>〃　45　〃</td><td>3.9〃</td><td>39.0〃</td></tr><tr><td>〃　50　〃</td><td>4.0〃</td><td>30.7〃</td></tr><tr><td>〃　60　〃</td><td>4.4〃</td><td>45.5〃</td></tr><tr><td>〃　70　〃</td><td>4.9〃</td><td>43.5〃</td><td>2.7〃</td></tr></table></td><td>６）ラフテレーンクレーン
（1）作業形態と諸元
<table><tr><th>クレーン規格</th><th>ｱｳﾄﾘｶﾞｰ
位置（Ｉ）</th><th>最大ﾌﾞｰﾑ
長　さ</th><th>ﾌﾞｰﾑ支点
高さ(H)</th></tr><tr><td>(油)　16　t吊</td><td>2.6m</td><td>24.1m</td><td rowspan="8">2.5m</td></tr><tr><td>〃　20　〃</td><td>3.1〃</td><td>30.5〃</td></tr><tr><td>〃　25　〃</td><td>3.4〃</td><td>29.8〃</td></tr><tr><td>〃　35　〃</td><td>3.6〃</td><td>29.2〃</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>〃　50　〃</td><td>4.0〃</td><td>30.7〃</td></tr><tr><td>〃　60　〃</td><td>4.4〃</td><td>45.5〃</td></tr><tr><td>〃　70　〃</td><td>4.9〃</td><td>43.5〃</td><td>2.7〃</td></tr></table></td><td>物価本掲載規格削除に伴う記載の削除</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>1節 直接工事費
付属資料－1
作業能力等
P2-1-(11)</td><td>(2) 実吊荷重
ラフテレーンクレーン：作業半径と実吊荷重（ｔ）
<table><tr><th>作業半径
（m）</th><th colspan="8">クレーン規格（ｔ吊）</th></tr><tr><td></td><td>16</td><td>20</td><td>25</td><td>35</td><td>45</td><td>50</td><td>60</td><td>70</td></tr><tr><td>3</td><td>15.8</td><td>19.7</td><td>24.7</td><td>34.6</td><td>44.5</td><td>49.2</td><td>56.0</td><td>63.0</td></tr><tr><td>4</td><td>12.3</td><td>18.2</td><td>22.7</td><td>27.1</td><td>36.5</td><td>36.5</td><td>45.5</td><td>52.0</td></tr><tr><td>5</td><td>10.1</td><td>13.9</td><td>19.1</td><td>22.0</td><td>29.8</td><td>29.8</td><td>38.1</td><td>41.1</td></tr><tr><td>6</td><td>8.5</td><td>11.8</td><td>16.0</td><td>18.3</td><td>24.7</td><td>24.7</td><td>32.1</td><td>33.3</td></tr><tr><td>7</td><td>6.7</td><td>9.9</td><td>12.4</td><td>14.5</td><td>20.4</td><td>20.3</td><td>26.3</td><td>27.7</td></tr><tr><td>8</td><td>5.2</td><td>7.8</td><td>10.4</td><td>12.5</td><td>17.2</td><td>17.2</td><td>21.2</td><td>23.6</td></tr><tr><td>9</td><td>4.2</td><td>6.3</td><td>8.3</td><td>10.2</td><td>14.8</td><td>14.8</td><td>17.2</td><td>17.6</td></tr><tr><td>10</td><td>3.4</td><td>5.1</td><td>6.9</td><td>8.3</td><td>12.8</td><td>12.1</td><td>14.1</td><td>14.2</td></tr><tr><td>12</td><td>2.4</td><td>3.8</td><td>5.3</td><td>6.4</td><td>8.9</td><td>8.5</td><td>10.0</td><td>10.2</td></tr><tr><td>14</td><td>1.9</td><td>2.8</td><td>4.0</td><td>4.8</td><td>7.0</td><td>6.8</td><td>8.0</td><td>8.1</td></tr><tr><td>16</td><td>1.4</td><td>2.2</td><td>3.3</td><td>3.9</td><td>5.5</td><td>5.2</td><td>6.3</td><td>6.4</td></tr><tr><td>18</td><td>1.0</td><td>1.7</td><td>2.6</td><td>3.1</td><td>4.3</td><td>4.0</td><td>5.3</td><td>5.1</td></tr><tr><td>20</td><td>0.7</td><td>1.3</td><td>2.1</td><td>2.3</td><td>3.8</td><td>3.0</td><td>4.4</td><td>4.1</td></tr><tr><td>22</td><td></td><td>1.0</td><td>1.7</td><td>1.7</td><td>3.0</td><td>2.3</td><td>3.2</td><td>3.2</td></tr><tr><td>24</td><td></td><td>0.7</td><td>1.3</td><td>1.3</td><td>2.3</td><td>1.6</td><td>2.5</td><td>2.5</td></tr><tr><td>26</td><td></td><td>0.5</td><td>1.1</td><td>1.0</td><td>1.8</td><td>1.0</td><td>1.9</td><td>1.9</td></tr><tr><td>28</td><td></td><td>0.3</td><td></td><td></td><td>1.4</td><td></td><td>1.5</td><td>1.5</td></tr><tr><td>30</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1.0</td><td></td><td>0.9</td><td>1.1</td></tr><tr><td>32</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0.7</td><td></td><td>0.9</td><td>0.7</td></tr><tr><td>34</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0.4</td><td></td><td>0.6</td><td>0.4</td></tr></table></td><td>(2) 実吊荷重
ラフテレーンクレーン：作業半径と実吊荷重（ｔ）
<table><tr><th>作業半径
（m）</th><th colspan="8">クレーン規格（ｔ吊）</th></tr><tr><td></td><td>16</td><td>20</td><td>25</td><td>35</td><td></td><td>50</td><td>60</td><td>70</td></tr><tr><td>3</td><td>15.8</td><td>19.7</td><td>24.7</td><td>34.6</td><td></td><td>49.2</td><td>56.0</td><td>63.0</td></tr><tr><td>4</td><td>12.3</td><td>18.2</td><td>22.7</td><td>27.1</td><td></td><td>36.5</td><td>45.5</td><td>52.0</td></tr><tr><td>5</td><td>10.1</td><td>13.9</td><td>19.1</td><td>22.0</td><td></td><td>29.8</td><td>38.1</td><td>41.1</td></tr><tr><td>6</td><td>8.5</td><td>11.8</td><td>16.0</td><td>18.3</td><td></td><td>24.7</td><td>32.1</td><td>33.3</td></tr><tr><td>7</td><td>6.7</td><td>9.9</td><td>12.4</td><td>14.5</td><td></td><td>20.3</td><td>26.3</td><td>27.7</td></tr><tr><td>8</td><td>5.2</td><td>7.8</td><td>10.4</td><td>12.5</td><td></td><td>17.2</td><td>21.2</td><td>23.6</td></tr><tr><td>9</td><td>4.2</td><td>6.3</td><td>8.3</td><td>10.2</td><td></td><td>14.8</td><td>17.2</td><td>17.6</td></tr><tr><td>10</td><td>3.4</td><td>5.1</td><td>6.9</td><td>8.3</td><td></td><td>12.1</td><td>14.1</td><td>14.2</td></tr><tr><td>12</td><td>2.4</td><td>3.8</td><td>5.3</td><td>6.4</td><td></td><td>8.5</td><td>10.0</td><td>10.2</td></tr><tr><td>14</td><td>1.9</td><td>2.8</td><td>4.0</td><td>4.8</td><td></td><td>6.8</td><td>8.0</td><td>8.1</td></tr><tr><td>16</td><td>1.4</td><td>2.2</td><td>3.3</td><td>3.9</td><td></td><td>5.2</td><td>6.3</td><td>6.4</td></tr><tr><td>18</td><td>1.0</td><td>1.7</td><td>2.6</td><td>3.1</td><td></td><td>4.0</td><td>5.3</td><td>5.1</td></tr><tr><td>20</td><td>0.7</td><td>1.3</td><td>2.1</td><td>2.3</td><td></td><td>3.0</td><td>4.4</td><td>4.1</td></tr><tr><td>22</td><td></td><td>1.0</td><td>1.7</td><td>1.7</td><td></td><td>2.3</td><td>3.2</td><td>3.2</td></tr><tr><td>24</td><td></td><td>0.7</td><td>1.3</td><td>1.3</td><td></td><td>1.6</td><td>2.5</td><td>2.5</td></tr><tr><td>26</td><td></td><td>0.5</td><td>1.1</td><td>1.0</td><td></td><td>1.0</td><td>1.9</td><td>1.9</td></tr><tr><td>28</td><td></td><td>0.3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1.5</td><td>1.5</td></tr><tr><td>30</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0.9</td><td>1.1</td></tr><tr><td>32</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0.9</td><td>0.7</td></tr><tr><td>34</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0.6</td><td>0.4</td></tr></table></td><td>物価本掲載規格削除に伴う記載の削除</td></tr>
<tr><td>1節 直接工事費
補足資料－１
直接工事費
P2-1-(13)</td><td>９．端数処理の取扱い
四捨五入等の端数処理は、端数処理対象となる桁で処理するものとし、端数処理対象となる桁以降については、考慮しないものとする。

例）小数１位切り上げの場合、小数１位の桁が１以上の場合は切り上げし、０の場合には切り捨てるものとする。</td><td></td><td>記載場所の変更</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
1節 直接工事費 補足資料－１ 直接工事費 P2-1-(19)	工　種　名 ／ 標　準　作　業　能　力　等 11節　陸上地盤改良工 ｻﾝﾄﾞｺﾝﾊﾟｸｼｮﾝﾊﾟｲﾙ工(ｻﾝﾄﾞﾄﾞﾚｰﾝ併用杭)能力算定方法 (1) 能力算定式 $Q = \frac{L}{L} \times (1.00 + E_1 + E_2 + E_3 + E_4 + E_5) \times T$ Q　：1日当り締固砂杭造成本数（本／日） L　：1時間当り標準造成延長（30.0m／hr） E_1：改良区分能力補正係数 E_2：造成杭長能力補正係数 E_3：打込長比能力補正係数 E_4：改良面積能力補正係数 E_5：障害区分能力補正係数 L　：1本当り造成杭長（m） T　：クローラ式サンドパイル打機の標準運転時間（hr／日） (2) 能力係数等 係数区分 ／ 補正係数 ／ 摘要 E_1 改良区分：地盤改良 0.00；液状化対策 －0.10 E_2 造成杭長(L)：5m未満 －0.10；5～10 〃 $-0.02\times(10-L)$；10～15 〃 0.00；15～20 〃 $-0.02\times(L-15)$；20m以上 －0.10　（小数3位四捨五入） E_3 打込長比 $\left(\frac{L}{L'}\right)$：$-0.50\times\left(1.00-\frac{L}{L'}\right)$　（小数3位四捨五入） E_4 改良面積(A)：$0.055\times\frac{A}{1,000}$　（小数3位四捨五入 改良面積が1,000㎡未満は1,000㎡とする。） E_5 障害区分：障害なし 0.00；障害あり －0.05 サンドドレーン併用杭の場合 サンドコンパクションパイル造成部を造成杭長とする。 ただし、サンドドレーン部も砂を計上する。 （割増率はサンドドレーンを適用）  		ｸﾛｰﾗ式ｻﾝﾄﾞﾊﾟｲﾙ打機損料削除に伴う基準の削除

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>1節 直接工事費
補足資料－１
直接工事費
P2-1-(24)</td><td></td><td>１０．端数処理の取扱い
四捨五入等の端数処理は、端数処理対象となる桁で処理するものとし、端数処理対象となる桁以降については、考慮しないものとする。

例）小数１位切り上げの場合、小数１位の桁が１以上の場合は切り上げし、０の場合には切り捨てるものとする。</td><td>記載場所の変更</td></tr>
<tr><td>2節 間接工事費
P2-2-8</td><td>３－１－２　現場管理費率の補正
１）施工時期、工事期間等による補正
施工時期、工事期間等を考慮して、「表－③　現場管理費率」により求めた率を２％の範囲内で適切に補正（加算）することができる。ただし、重複する場合は、最高２％とする。

(1) 積雪寒冷地で施工時期が冬期となる場合
①　積雪寒冷地域の範囲…人事院規則に規定される寒冷地手当を支給する地域とする。
②　積雪寒冷地域の施工期間を次のとおりとする。</td><td>３－１－２　現場管理費率の補正
１）施工時期、工事期間等による補正
施工時期、工事期間等を考慮して、「表－③　現場管理費率」により求めた率を２％の範囲内で適切に補正（加算）することができる。ただし、重複する場合は、最高２％とする。

(1) 積雪寒冷地域で施工時期が冬期となる場合
①　積雪寒冷地域の範囲…国家公務員の寒冷地手当に関する法律に規定される寒冷地手当を支給する地域とする。
②　積雪寒冷地域の施工期間を次のとおりとする。</td><td>記載内容の修正</td></tr>
<tr><td>3節 一般管理費等
P2-3-1</td><td>表－④　一般管理費等率
<table><tr><th>工事原価
適用区分等</th><th>500万円以下</th><th colspan="2">500万円を超え30億円以下</th><th>30億円を超えるもの</th></tr><tr><td></td><td>下記の率とする</td><td colspan="2">算定式により算出された率とする。ただし、定数値は下記による</td><td>下記の率とする</td></tr><tr><td></td><td></td><td>a</td><td>b</td><td></td></tr><tr><td>一般管理費等率</td><td>23.57 %</td><td>－4.97802</td><td>56.92101</td><td>9.74 %</td></tr></table>一般管理費等率の算定式
$G_P = a \cdot \log(C_P) + b$　　（小数３位四捨五入）
ただし、
G_P ： 一般管理費等率（%）
C_P ： 工事原価（円）</td><td>表－④　一般管理費等率
<table><tr><th>工事原価
適用区分等</th><th>500万円以下</th><th colspan="2">500万円を超え30億円以下</th><th>30億円を超えるもの</th></tr><tr><td></td><td>下記の率とする</td><td colspan="2">算定式により算出された率とする。ただし、定数値は下記による</td><td>下記の率とする</td></tr><tr><td></td><td></td><td>a</td><td>b</td><td></td></tr><tr><td>一般管理費等率</td><td>25.13 %</td><td>－5.21826</td><td>60.08343</td><td>10.63 %</td></tr></table>一般管理費等率の算定式
$G_P = a \cdot \log(C_P) + b$　　（小数３位四捨五入）
ただし、
G_P ： 一般管理費等率（%）
C_P ： 工事原価（円）</td><td>率式の見直し</td></tr>
<tr><td>4節 その他
P2-4-1</td><td>１－１－１　増加費用等の適用および範囲
１）　増加費用等の適用
増加費用等の適用は、工期延長等に伴う増加費用等について受注者から請求があった場合に適用する。
なお、一時中止期間が3箇月を超える場合は適用しないものとする。</td><td>１－１－１　増加費用等の適用および範囲
１）　増加費用等の適用
増加費用等の適用は、工期延長等に伴う増加費用等について受注者から請求があった場合に適用する。</td><td>記載の削除</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

第3章 直接工事費の施工歩掛 1節 浚渫・土捨工 P3-1-44

現行（令和７年度）

(2) 設置・撤去の数量

①排砂管（フロータ）の本数は、排砂管（フロータ）設置総延長を排砂管１本当りの単位長さ（6.0m）で除して算出する（１位止、切上げ）。

②ゴムジョイントの本数は、次式により算出する（１位止、切上げ）。

$$\text{ゴムジョイント本数} = \frac{\text{フロータ部延長（m）}}{6\text{m}} + \frac{\text{海底管延長（m）}}{20\text{m}} + 1$$

改定（令和８年度）

(2) 設置・撤去の数量

①排砂管（フロータ管および海底管）の本数は、それぞれの設置総延長を排砂管１本当りの単位長さ（6.0m）で除して各々算出する（１位止、切上げ）。

注）排砂管の設置総延長はゴムジョイントの延長を考慮しない。

②ゴムジョイントの本数は、次式により算出する（１位止、切上げ）。

$$\text{ゴムジョイント本数} = \frac{\text{フロータ管延長（m）}}{6\text{m}} + \frac{\text{海底管延長（m）}}{20\text{m}} + 1$$

コメント

記載内容の見直し

1節 浚渫・土捨工 P3-1-47

現行（令和７年度）

(2)受枠設置・撤去

②陸上受枠設置・撤去　30m当り

名称	形状寸法	単位	受枠の高さ（H）			摘要
			0m	2m	4m	
笠木丸太	末口15cm×1.8m	m³	0.4			
杭丸太		〃	—	1.4	1.8	
筋違丸太		〃	—	0.4	0.5	
足場丸太	末口10cm×7.0m	〃	—	0.9		
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ	（油） 25ｔ吊	日	—	0.6	0.6	標準運転時間
トラック	8ｔ積	〃	0.4	0.4	1.0	〃
型枠工		人	0.1	0.4	0.6	
普通作業員		〃	1.6	5.6	8.4	
雑材料						

(3) 排砂管設置・撤去

①排砂管（海底管）設置・撤去　60m当り

名称	形状寸法	単位	船種・規格区分		摘要
			〔1〕	〔2〕	
揚錨船	鋼D　ｔ吊	日	0.5		就業8H
台船	鋼　200ｔ積	〃	0.5		〃
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	0.5		〃
引船	鋼D　250PS型	〃	0.5		運2H／就8H
引船	鋼D　200PS型	〃	0.5		〃
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ	（油）　25ｔ吊	〃	0.7	0.5	標準運転時間
空気圧縮機	5.0m³/min	〃	0.5		
普通作業員		人	9.4	6.5	
雑材料					

改定（令和８年度）

(2)受枠設置・撤去

②陸上受枠設置・撤去　30m当り

名称	形状寸法	単位	受枠の高さ（H）			摘要
			0m	2m	4m	
笠木丸太	末口15cm×1.8m	m³	0.4			
杭丸太		〃	—	1.4	1.8	
筋違丸太		〃	—	0.4	0.5	
足場丸太	末口10cm×7.0m	〃	—	0.9		
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ	（油） 25ｔ吊	日	—	0.6	0.6	標準運転時間
トラック	8ｔ積級	〃	0.4	0.4	1.0	〃
型枠工		人	0.1	0.4	0.6	
普通作業員		〃	1.6	5.6	8.4	
雑材料						

(3) 排砂管設置・撤去

①排砂管（海底管）設置・撤去　60m当り

名称	形状寸法	単位	船種・規格区分		摘要
			〔1〕	〔2〕	
揚錨船	鋼D　ｔ吊	日	0.5		就業8H
台船	鋼　200ｔ積	〃	0.5		〃
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	0.5		〃
引船	鋼D　250PS型	〃	0.5		運2H／就8H
引船	鋼D　200PS型	〃	0.5		〃
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ	（油）　25ｔ吊	〃	0.7	0.5	標準運転時間
空気圧縮機	5.0m³/min	〃	0.5		
普通作業員		人	9.4	6.5	
雑材料					

コメント

機械器具等損料改定に伴う変更

潜水士船の大型化による基準改定

1節 浚渫・土捨工 P3-1-48

現行（令和７年度）

(3) 排砂管設置・撤去

③排砂管（陸上受枠上）設置・撤去　60m当り

名称	形状寸法	単位	船種・規格区分		摘要
			〔1〕	〔2〕	
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ	（油） 25ｔ吊	日	1.1	1.0	標準運転時間
トラック	8ｔ積	〃	0.4		〃
普通作業員		人	7.6	5.0	
雑材料					

改定（令和８年度）

(3) 排砂管設置・撤去

③排砂管（陸上受枠上）設置・撤去　60m当り

名称	形状寸法	単位	船種・規格区分		摘要
			〔1〕	〔2〕	
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ	（油） 25ｔ吊	日	1.1	1.0	標準運転時間
トラック	8ｔ積級	〃	0.4		〃
普通作業員		人	7.6	5.0	
雑材料					

コメント

機械器具等損料改定に伴う変更

1節 浚渫・土捨工 参考資料－4 バックホウ掘土 P3-1-（23）

現行（令和７年度）

3）バックホウ規格の組合せ

バケット総容量	バックホウ規格の組合せ
１m³	排出ｶﾞｽ対策型(第2次基準値) 山積1.4m³（平積1.0m³）×１台
２m³	排出ｶﾞｽ対策型(第2次基準値) 山積1.4m³（平積1.0m³）×２台
３m³	排出ｶﾞｽ対策型(第2次基準値) 山積1.9m³（平積1.4m³）×２台

改定（令和８年度）

3）バックホウ規格の組合せ

バケット総容量	バックホウ規格の組合せ
１m³	排出ｶﾞｽ対策型(第2次基準値) 1.4m³×１台
２m³	排出ｶﾞｽ対策型(第2次基準値) 1.4m³×２台
３m³	排出ｶﾞｽ対策型(第2次基準値) 1.9m³×２台

コメント

機械器具等損料改定に伴う変更

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

2節 海上地盤改良工　P3-2-26

現行（令和７年度）

2）代価表
（1）置換材投入　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
置換砂		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/Q	就業8H
雑材料				

2）代価表
（1）置換材均し（水中）　1日（　　m²）当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
①潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1	－	就業8H
②潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	－	1	就業8H
雑材料					

改定（令和８年度）

2）代価表
（1）置換材投入　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
置換砂		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/Q	就業8H
雑材料				

2）代価表
（1）置換材均し（水中）　1日（　　m²）当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
①潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1	－	就業8H
②潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	－	1	就業8H
雑材料					

コメント
潜水士船の大型化による基準改定

2節 海上地盤改良工　P3-2-28

現行（令和７年度）

2）代価表
（1）敷砂投入　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
敷砂		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/Q	就業8H
雑材料				

改定（令和８年度）

2）代価表
（1）敷砂投入　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
敷砂		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/Q	就業8H
雑材料				

コメント
潜水士船の大型化による基準改定

2節 海上地盤改良工　P3-2-30

現行（令和７年度）

2）代価表
（1）敷砂均し（水中）　1日（　　m²）当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
①潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1	－	就業8H
②潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	－	1	就業8H
雑材料					

2）代価表
（1）載荷土砂投入　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
載荷土砂		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/Q	就業8H
雑材料				

改定（令和８年度）

2）代価表
（1）敷砂均し（水中）　1日（　　m²）当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
①潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1	－	就業8H
②潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	－	1	就業8H
雑材料					

2）代価表
（1）載荷土砂投入　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
載荷土砂		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/Q	就業8H
雑材料				

コメント
潜水士船の大型化による基準改定

2節 海上地盤改良工　P3-2-31

現行（令和７年度）

2）代価表
（1）載荷土砂均し（水中）　1日（　　m²）当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
①潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1	－	就業8H
②潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	－	1	就業8H
雑材料					

改定（令和８年度）

2）代価表
（1）載荷土砂均し（水中）　1日（　　m²）当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
①潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1	－	就業8H
②潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	－	1	就業8H
雑材料					

コメント
潜水士船の大型化による基準改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

3節 基礎工 P3-3-8

現行（令和７年度）

2）代価表
（1）盛砂投入　1,000m³当り

名　称	形 状 寸 法	単位	数　量	摘　要
盛　砂		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
潜 水 士 船	D270PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/Q	就業8H
雑　材　料				

2）代価表
（1）盛砂均し（水中）　1日（　　m²）当り

名　称	形 状 寸 法	単位	数　量		摘　要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
①潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1	－	就業8H
②潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	－	1	就業8H
雑　材　料					

改定（令和８年度）

2）代価表
（1）盛砂投入　1,000m³当り

名　称	形 状 寸 法	単位	数　量	摘　要
盛　砂		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
潜 水 士 船	D320PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/Q	就業8H
雑　材　料				

2）代価表
（1）盛砂均し（水中）　1日（　　m²）当り

名　称	形 状 寸 法	単位	数　量		摘　要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
①潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1	－	就業8H
②潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	－	1	就業8H
雑　材　料					

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

3節 基礎工 P3-3-10

現行（令和７年度）

2）代価表
（1）アスファルトマット敷設　1日（　　枚）当り

名　称	形 状 寸 法	単位	数　量		摘　要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
アスファルトマット	m×　m	枚			
クレーン付台船	t吊	日	1		運6H／就8H
引　船	鋼D　PS型	〃	1		運2H／就8H
①潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	2	－	就業8H
②潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	－	2	就業8H
とび工		人	1		
普通作業員		〃	1		
雑　材　料					

改定（令和８年度）

2）代価表
（1）アスファルトマット敷設　1日（　　枚）当り

名　称	形 状 寸 法	単位	数　量		摘　要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
アスファルトマット	m×　m	枚			
クレーン付台船	t吊	日	1		運6H／就8H
引　船	鋼D　PS型	〃	1		運2H／就8H
①潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	2	－	就業8H
②潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	－	2	就業8H
とび工		人	1		
普通作業員		〃	1		
雑　材　料					

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

3節 基礎工 P3-3-11

現行（令和７年度）

2）代価表
（1）帆布敷設　1日（　　m²）当り

名　称	形 状 寸 法	単位	数　量		摘　要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
帆　布		m²			割増しを含む
クレーン付台船	35～40ｔ吊	日	1		運6H／就8H
引　船	鋼D300PS型	〃	1		運2H／就8H
①潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	4	－	就業8H
②潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	－	4	就業8H
とび工		人	1		
普通作業員		〃	7		
雑　材　料					

改定（令和８年度）

2）代価表
（1）帆布敷設　1日（　　m²）当り

名　称	形 状 寸 法	単位	数　量		摘　要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
帆　布		m²			割増しを含む
クレーン付台船	35～40ｔ吊	日	1		運6H／就8H
引　船	鋼D300PS型	〃	1		運2H／就8H
①潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	4	－	就業8H
②潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	－	4	就業8H
とび工		人	1		
普通作業員		〃	7		
雑　材　料					

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

3節 基礎工　P3-3-12

現行（令和７年度）

2）代価表
（1）合成樹脂系マット敷設　１日（　　m²）当り

名　称	形状寸法	単位	数量		摘　要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
合成樹脂系マット		m²			割増しを含む
クレーン付台船	35～40ｔ吊	日	1		運6H／就8H
引船	鋼D300PS型	〃	1		運2H／就8H
①潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	4	－	就業8H
②潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	－	4	就業8H
とび工		人	1		
普通作業員		〃	9　(5)		()はｱﾝｶｰ無しの場合
雑材料					

改定（令和８年度）

2）代価表
（1）合成樹脂系マット敷設　１日（　　m²）当り

名　称	形状寸法	単位	数量		摘　要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
合成樹脂系マット		m²			割増しを含む
クレーン付台船	35～40ｔ吊	日	1		運6H／就8H
引船	鋼D300PS型	〃	1		運2H／就8H
①潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	4	－	就業8H
②潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	－	4	就業8H
とび工		人	1		
普通作業員		〃	9　(5)		()はｱﾝｶｰ無しの場合
雑材料					

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

3節 基礎工　P3-3-14

現行（令和７年度）

2）代価表
（1）捨石投入　1,000m³当り

名　称	形状寸法	単位	数量	摘　要
捨石	～　kg／個	m³	1,000×(1＋W/100)	割増しを含む
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1,000×(1＋W/100)／Q	就業8H
雑材料				

改定（令和８年度）

2）代価表
（1）捨石投入　1,000m³当り

名　称	形状寸法	単位	数量	摘　要
捨石	～　kg／個	m³	1,000×(1＋W/100)	割増しを含む
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1,000×(1＋W/100)／Q	就業8H
雑材料				

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

3節 基礎工　P3-3-18

現行（令和７年度）

3）代価表
（1）捨石本均し・荒均し（水中）　１日（　　m²）当り

名　称	形状寸法	単位	数量		摘　要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
目潰石		m³			
①潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1	－	就業8H
②潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	－	1	就業8H
雑材料					

改定（令和８年度）

3）代価表
（1）捨石本均し・荒均し（水中）　１日（　　m²）当り

名　称	形状寸法	単位	数量		摘　要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
目潰石		m³			
①潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1	－	就業8H
②潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	－	1	就業8H
雑材料					

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

3節 基礎工　P3-3-20

現行（令和７年度）

3）代価表
（1）捨石本均し・荒均し（陸上）　100m²当り

名　称	形状寸法	単位	数量		摘　要
			陸上施工	海上施工	
目潰石		m³			
バックホウ	排出ガス対策型 （第2次基準値） ｸﾛｰﾗ型 山積 0.8m³ （平積 0.6m³）	日		－	標準運転時間
クレーン付台船	ｔ吊	〃	－		運6H／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	－		運2H／就8H
石工		人			
普通作業員		〃			
雑材料					

改定（令和８年度）

3）代価表
（1）捨石本均し・荒均し（陸上）　100m²当り

名　称	形状寸法	単位	数量		摘　要
			陸上施工	海上施工	
目潰石		m³			
バックホウ	排出ガス対策型 （第2次基準値） ｸﾛｰﾗ型 0.8m³	日		－	標準運転時間
クレーン付台船	ｔ吊	〃	－		運6H／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	－		運2H／就8H
石工		人			
普通作業員		〃			
雑材料					

コメント

機械器具等損料改定に伴う変更

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

3節 基礎工 参考資料－1 機械均し P3-3-(3)

現行（令和７年度）

3）代価表
（1）機械均し　　1日（　　㎡）当り

名　称	形 状 寸 法	単位	数　量	摘　　要
捨石均し船	1,000PS型	日	1	運6H／就10H
揚　錨　船	鋼D　15ｔ吊	〃	1	就業8H
潜 水 士 船	D270PS型 3～5t吊	〃	1	就業8H
引　　船	鋼D 1,500PS型	〃		運2H／就8H
雑　材　料				

注）引船は、現場条件により計上できる。

改定（令和８年度）

3）代価表
（1）機械均し　　1日（　　㎡）当り

名　称	形 状 寸 法	単位	数　量	摘　　要
捨石均し船	1,000PS型	日	1	運6H／就10H
揚　錨　船	鋼D　15ｔ吊	〃	1	就業8H
潜 水 士 船	D320PS型 3～5t吊	〃	1	就業8H
引　　船	鋼D 1,500PS型	〃		運2H／就8H
雑　材　料				

注）引船は、現場条件により計上できる。

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

3節 基礎工 参考資料－2 バックホウ均し P3-3-(6)

現行（令和７年度）

4）代価表
（1）バックホウ均し　1日（　　㎡）当り

名　　称	形 状 寸 法	単位	数　量	摘　　要
水中バックホウ	71KW	日	1	運5H／就8H
潜　水　士　船	D270PS型 3～5t吊	〃		就業8H
クレーン付台船	45～50ｔ吊	〃	1	運2H／就8H
引　　船	鋼D 450PS型	〃	1	運2H／就8H
特 殊 作 業 員		人	1	
雑　　材　　料				

改定（令和８年度）

4）代価表
（1）バックホウ均し　1日（　　㎡）当り

名　　称	形 状 寸 法	単位	数　量	摘　　要
水中バックホウ	71KW	日	1	運5H／就8H
潜　水　士　船	D320PS型 3～5t吊	〃		就業8H
クレーン付台船	45～50ｔ吊	〃	1	運2H／就8H
引　　船	鋼D 450PS型	〃	1	運2H／就8H
特 殊 作 業 員		人	1	
雑　　材　　料				

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

3節 基礎工 参考資料－3 袋詰ｺﾝｸﾘｰﾄ工 P3-3-(8)

現行（令和７年度）

２－４　施工歩掛
1）代価表
（1）袋詰コンクリート　10m³当り

名　　称	形 状 寸 法	単位	数　量	摘　　要
ﾚﾃﾞｨｰﾐｸｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ		m³	10.2	割増しを含む
麻　　袋		枚	300	
クレーン付台船	35～40ｔ吊	日	1.5	運6H／就8H
引　　船	鋼D300PS型	〃	1.5	運2H／就8H
潜　水　士　船	D270PS型 3～5t吊	〃	4	就業8H
普 通 作 業 員		人	6	
雑　　材　　料				

注）レディーミクストコンクリートは、雑材料の対象としない。

改定（令和８年度）

２－４　施工歩掛
1）代価表
（1）袋詰コンクリート　10m³当り

名　　称	形 状 寸 法	単位	数　量	摘　　要
ﾚﾃﾞｨｰﾐｸｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ		m³	10.2	割増しを含む
麻　　袋		枚	300	
クレーン付台船	35～40ｔ吊	日	1.5	運6H／就8H
引　　船	鋼D300PS型	〃	1.5	運2H／就8H
潜　水　士　船	D320PS型 3～5t吊	〃	4	就業8H
普 通 作 業 員		人	6	
雑　　材　　料				

注）レディーミクストコンクリートは、雑材料の対象としない。

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

4節 本体工 4.1ケーソン式 P3-4.1-22

現行（令和７年度）

２－７－３　施工歩掛
1）代価表
（1）支保組立組外　100m当り

名　　称	形 状 寸 法	単位	数　量			摘　　要
			陸上 ｸﾚｰﾝ	貸与 ｸﾚｰﾝ	海上 ｸﾚｰﾝ	
支保組立組外	クレーン抜き	m	100			市場単価
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	（油）　ｔ吊	日	2.2	－	－	標準運転時間
貸与クレーン運転費	ｔ吊	〃	－	2.2	－	
クレーン付台船または起重機船	ｔ吊 非航旋回鋼D　ｔ吊	〃	－	－	2.2	運6H／就8H
引　　船	鋼D　PS型	〃	－	－	2.2	運2H／就8H
潜　水　士　船	D270PS型 3～5t吊	〃				就業8H

改定（令和８年度）

２－７－３　施工歩掛
1）代価表
（1）支保組立組外　100m当り

名　　称	形 状 寸 法	単位	数　量			摘　　要
			陸上 ｸﾚｰﾝ	貸与 ｸﾚｰﾝ	海上 ｸﾚｰﾝ	
支保組立組外	クレーン抜き	m	100			市場単価
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	（油）　ｔ吊	日	2.2	－	－	標準運転時間
貸与クレーン運転費	ｔ吊	〃	－	2.2	－	
クレーン付台船または起重機船	ｔ吊 非航旋回鋼D　ｔ吊	〃	－	－	2.2	運6H／就8H
引　　船	鋼D　PS型	〃	－	－	2.2	運2H／就8H
潜　水　士　船	D320PS型 3～5t吊	〃				就業8H

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント

4節 本体工 4.1ケーソン式 P3-4.1-34

現行

３－４－４　施工歩掛

１）代価表

（1）止水板取付・取外　ボルト100個所当り

名　称	形状寸法	単位	数量 取付 陸上 ケーソン製作用台船方式(FD)	数量 取付 陸上 ケーソン製作用台船方式(DD)	数量 取付 陸上 陸上クレーン	数量 取付 陸上 貸与クレーン	数量 取付 海上 海上クレーン	数量 取外 海上 海上クレーン	摘　要
止水板取付・取外	クレーン抜き	個		100			100		市場単価
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	（油）　t吊	日	－	1.0	－	－	－		標準運転時間
貸与クレーン運転費	t吊	〃	－	－	1.0	－	－		
クレーン付台船	45～50t吊	〃	－	－	－	1.2	0.5		運6H／就8H
引船	鋼D　450PS型	〃	－	－	－	1.2	0.5		運2H／就8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	－	－	－	1.0	0.7		就業8H

改定

３－４－４　施工歩掛

１）代価表

（1）止水板取付・取外　ボルト100個所当り

名　称	形状寸法	単位	数量 取付 陸上 ケーソン製作用台船方式(FD)	数量 取付 陸上 ケーソン製作用台船方式(DD)	数量 取付 陸上 陸上クレーン	数量 取付 陸上 貸与クレーン	数量 取付 海上 海上クレーン	数量 取外 海上 海上クレーン	摘　要
止水板取付・取外	クレーン抜き	個		100			100		市場単価
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	（油）　t吊	日	－	1.0	－	－	－		標準運転時間
貸与クレーン運転費	t吊	〃	－	－	1.0	－	－		
クレーン付台船	45～50t吊	〃	－	－	－	1.2	0.5		運6H／就8H
引船	鋼D　450PS型	〃	－	－	－	1.2	0.5		運2H／就8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	－	－	－	1.0	0.7		就業8H

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

4節 本体工 4.1ケーソン式 P3-4.1-36

現行

３－６－３－２　施工歩掛

１）代価表

（1）ケーソン進水（函台台車方式）　１函当り

名　称	形状寸法	単位	数量 400t未満	数量 400t～700t未満	数量 700t～1,000t未満	数量 1,000t～1,600t未満	数量 1,600t～2,000t未満	数量 2,000t～2,500t未満	摘　要
とび工		人	4	6	6	7	8	9	
普通作業員		〃	4	5	6	7	8	9	
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	0.3	0.5	0.7	1	1.5	2	就業8H
機械		〃	0.3	0.3	0.5	0.8	1.0	1.3	
雑材料		%	2.5						ｸﾞﾘｰｽ・ﾀｰﾋﾞﾝ油(ｼﾞｬｯｷ用)含む

注）機械は、進水準備に必要な機械器具、クレーン等を計上する。

改定

３－６－３－２　施工歩掛

１）代価表

（1）ケーソン進水（函台台車方式）　１函当り

名　称	形状寸法	単位	数量 400t未満	数量 400t～700t未満	数量 700t～1,000t未満	数量 1,000t～1,600t未満	数量 1,600t～2,000t未満	数量 2,000t～2,500t未満	摘　要
とび工		人	4	6	6	7	8	9	
普通作業員		〃	4	5	6	7	8	9	
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	0.3	0.5	0.7	1	1.5	2	就業8H
機械		〃	0.3	0.3	0.5	0.8	1.0	1.3	
雑材料		%	2.5						ｸﾞﾘｰｽ・ﾀｰﾋﾞﾝ油(ｼﾞｬｯｷ用)含む

注）機械は、進水準備に必要な機械器具、クレーン等を計上する。

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

4節 本体工 4.1ケーソン式 P3-4.1-37

現行

１）作業船の組合せ

ケーソン質量	標準的な船団構成 ケーソン進水準備 台船	引船	ケーソン進水 揚錨船	起重機船	引船①	引船②	引船③
200t～400t未満	鋼500t積	鋼D500PS型	鋼D10t吊	非航固定鋼 DE 500t吊	鋼D 3,000PS型	－	－
400t～1,000t 〃			〃20 〃	〃 1,400 〃		鋼D 3,000PS型	
1,000t～1,600t 〃			〃25 〃	〃 2,200 〃			
1,600t～2,000t 〃			〃30 〃				
2,000t～3,000t 〃				〃 3,700 〃	〃 4,000 〃	〃 4,000 〃	鋼D 3,000PS型

改定

１）作業船の組合せ

ケーソン質量	標準的な船団構成 ケーソン進水準備 台船	引船	ケーソン進水 揚錨船	起重機船	引船①	引船②	引船③
200t～400t未満	鋼500t積	鋼D500PS型	鋼D10t吊	非航固定鋼 DE 500t吊	鋼D 3,000PS型	－	－
400t～1,000t 〃			〃20 〃	〃 1,400 〃		鋼D 3,000PS型	
1,000t～1,600t 〃			〃25 〃	DH 2,200 〃			
1,600t～2,000t 〃			〃30 〃				
2,000t～3,000t 〃				DE 3,700 〃	〃 4,000 〃	〃 4,000 〃	鋼D 3,000PS型

コメント

起重機船（非航固定）DE 2,000t吊、2,200t吊が現存しないため規格の見直し

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
4節 本体工 4.1ケーソン式 P3-4.1-38	2）代価表 （1）ケーソン進水準備（吊降し方式）　１回当り	2）代価表 （1）ケーソン進水準備（吊降し方式）　１回当り	記載の追加

現行（令和７年度）

名　称	形状寸法	単位	数量 海上 取付	数量 海上 取外	数量 陸上 取付	数量 陸上 取外	摘　要
起重機船	非航固定 鋼DE　t吊	日	1	0.5	1	0.5	運4H／就8H
揚錨船	鋼D　t吊	〃	1	0.5	1	0.5	就業8H
台船	鋼　500t積	〃	1	0.5	—	—	就業8H
引船	鋼D　500PS型	〃	1	0.5	—	—	運2H／就8H
吊金具	t用	〃	1	0.5	1	0.5	損料
吊ワイヤーロープ	φ　mm	〃	1	0.5	1	0.5	損料
平衡滑車	t型	〃	1	0.5	1	0.5	損料
雑材料							

注）1.同一工事において吊点数の違う種類のケーソンを連続して据付する場合のセット替えについては取り付け歩掛のみ計上する。
2.吊金具損料は、吊枠損料を含まない。吊枠の改造、新規製作等が必要な場合は、別途計上することができる。
3.吊ワイヤーロープ損料は、「1点当り損料×使用点数」とする。
4.平衡滑車損料は、「1基当り損料×使用基数」とする。

（2）ケーソン進水（吊降し方式）　１日（　函）当り

名　称	形状寸法	単位	数量 200t～400t未満	400t～700t未満	700t～1,000t未満	1,000t～1,600t未満	1,600t～2,000t未満	2,000t～3,000t未満	摘　要
起重機船	非航固定 鋼DE　t吊	日	1						運6H／就8H
引船①	鋼D　PS型	〃	1						運2H／就8H
引船②	鋼D　PS型	〃	—	1					〃
引船③	鋼D　PS型	〃	—					1	〃
揚錨船	鋼D　t吊	〃	1						就業8H
とび工		人	3	4	5	6	7		
普通作業員		〃	3	4	5	6	8		
吊金具	t用	日	1						損料
吊ワイヤーロープ	φ　mm	〃	1						損料
平衡滑車	t型	〃	1						損料
雑材料									

注）1.吊金具損料は、吊枠損料を含まない。吊枠の改造、新規製作等が必要な場合は、別途計上することができる。
2.吊ワイヤーロープ損料は、「1点当り損料×使用点数」とする。
3.平衡滑車損料は、「1基当り損料×使用基数」とする。

改定（令和８年度）

名　称	形状寸法	単位	数量 海上 取付	数量 海上 取外	数量 陸上 取付	数量 陸上 取外	摘　要
起重機船	非航固定 鋼DE・DH　t吊	日	1	0.5	1	0.5	運4H／就8H
揚錨船	鋼D　t吊	〃	1	0.5	1	0.5	就業8H
台船	鋼　500t積	〃	1	0.5	—	—	就業8H
引船	鋼D　500PS型	〃	1	0.5	—	—	運2H／就8H
吊金具	t用	〃	1	0.5	1	0.5	損料
吊ワイヤーロープ	φ　mm	〃	1	0.5	1	0.5	損料
平衡滑車	t型	〃	1	0.5	1	0.5	損料
雑材料							

注）1.同一工事において吊点数の違う種類のケーソンを連続して据付する場合のセット替えについては取り付け歩掛のみ計上する。
2.吊金具損料は、吊枠損料を含まない。吊枠の改造、新規製作等が必要な場合は、別途計上することができる。
3.吊金具損料は、「1函当り損料×供用係数（α）」とする。
4.吊ワイヤーロープ損料は、「1点当り損料×使用点数×供用係数（α）」とする。
5.平衡滑車損料は、「1基当り損料×使用基数×供用係数（α）」とする。

（2）ケーソン進水（吊降し方式）　１日（　函）当り

名　称	形状寸法	単位	数量 200t～400t未満	400t～700t未満	700t～1,000t未満	1,000t～1,600t未満	1,600t～2,000t未満	2,000t～3,000t未満	摘　要
起重機船	非航固定 鋼DE・DH　t吊	日	1						運6H／就8H
引船①	鋼D　PS型	〃	1						運2H／就8H
引船②	鋼D　PS型	〃	—	1					〃
引船③	鋼D　PS型	〃	—					1	〃
揚錨船	鋼D　t吊	〃	1						就業8H
とび工		人	3	4	5	6	7		
普通作業員		〃	3	4	5	6	8		
吊金具	t用	日	1						損料
吊ワイヤーロープ	φ　mm	〃	1						損料
平衡滑車	t型	〃	1						損料
雑材料									

注）1.吊金具損料は、吊枠損料を含まない。吊枠の改造、新規製作等が必要な場合は、別途計上することができる。
2.吊金具損料は、「1函当り損料×供用係数（α）」とする。
3.吊ワイヤーロープ損料は、「1点当り損料×使用点数×供用係数（α）」とする。
4.平衡滑車損料は、「1基当り損料×使用基数×供用係数（α）」とする。

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲載頁：4節 本体工 4.1ケーソン式 P3-4.1-40

現行（令和７年度）

３－７－２－２　作業船の組合せ

１）作業船の組合せ

ケーソン質量	標準的な船団構成				現場条件による追加船団
	起重機船	引　船①	引　船 ②	潜水士船	引　船③
400t未満	非航旋回鋼D 150t吊	鋼D700PS型	鋼D　1,000PS型	D270PS型 3～5t吊	鋼D　PS型
400t～1,000t 〃			〃　1,200 〃		
1,000t～1,600t 〃			〃　1,500 〃		
1,600t～2,000t 〃					
2,000t～2,500t 〃	非航旋回鋼D 200t吊	鋼D800PS型	〃　2,000 〃		
2,500t～4,500t 〃			〃　3,000 〃		
4,500t～5,500t 〃					

改定（令和８年度）

３－７－２－２　作業船の組合せ

１）作業船の組合せ

ケーソン質量	標準的な船団構成				現場条件による追加船団
	起重機船	引　船①	引　船 ②	潜水士船	引　船③
400t未満	非航旋回鋼D 150t吊	鋼D700PS型	鋼D　1,000PS型	D320PS型 3～5t吊	鋼D　PS型
400t～1,000t 〃			〃　1,200 〃		
1,000t～1,600t 〃			〃　1,500 〃		
1,600t～2,000t 〃					
2,000t～2,500t 〃	非航旋回鋼D 200t吊	鋼D800PS型	〃　2,000 〃		
2,500t～4,500t 〃			〃　3,000 〃		
4,500t～5,500t 〃					

コメント：潜水士船の大型化による基準改定

掲載頁：4節 本体工 4.1ケーソン式 P3-4.1-41

現行（令和７年度）

２）代価表

（1）ケーソン仮置　１函当り

名　称	形状寸法	単位	数量 400t未満	400t～1,000t未満	1,000t～1,600t未満	1,600t～2,000t未満	2,000t～2,500t未満	2,500t～3,500t未満	3,500t～4,500t未満	4,500t～5,500t未満	摘　要
起重機船	非航旋回鋼D150t吊	日	0.33		0.50		－				運6H／就8H
	非航旋回鋼D200t吊	〃	－		－		1				
引　船①	鋼D 700PS型	〃	0.33		0.50		－				運2H／就8H
	鋼D 800PS型		－		－		1				
引　船②	鋼D PS型	〃	1								運:作業能力／就8H
引　船③	鋼D PS型	〃									〃
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	0.33		0.50		1				就業8H
とび工		人	0.8	1.1	1.3	1.5	1.8	2.1	2.5	2.9	
普通作業員		〃	1.2	1.7	2.0	2.3	2.7	3.2	3.8	4.4	
雑材料		%	1）沈設のみ　3.5 2）浮揚・沈設　6.0								発動発電機・水中ﾎﾟﾝﾌﾟ運転、ﾜｲﾔｰﾛｰﾌﾟ・錨損料含む

改定（令和８年度）

２）代価表

（1）ケーソン仮置　１函当り

名　称	形状寸法	単位	数量 400t未満	400t～1,000t未満	1,000t～1,600t未満	1,600t～2,000t未満	2,000t～2,500t未満	2,500t～3,500t未満	3,500t～4,500t未満	4,500t～5,500t未満	摘　要
起重機船	非航旋回鋼D150t吊	日	0.33		0.50		－				運6H／就8H
	非航旋回鋼D200t吊	〃	－		－		1				
引　船①	鋼D 700PS型	〃	0.33		0.50		－				運2H／就8H
	鋼D 800PS型		－		－		1				
引　船②	鋼D PS型	〃	1								運:作業能力／就8H
引　船③	鋼D PS型	〃									〃
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	0.33		0.50		1				就業8H
とび工		人	0.8	1.1	1.3	1.5	1.8	2.1	2.5	2.9	
普通作業員		〃	1.2	1.7	2.0	2.3	2.7	3.2	3.8	4.4	
雑材料		%	1）沈設のみ　3.5 2）浮揚・沈設　6.0								発動発電機・水中ﾎﾟﾝﾌﾟ運転、ﾜｲﾔｰﾛｰﾌﾟ・錨損料含む

コメント：潜水士船の大型化による基準改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲載頁：4節 本体工 4.1ケーソン式 P3-4.1-52

現行（令和７年度）

３－９－３－２　作業船の組合せ

１）作業船の組合せ

ケーソン質量	標準的な船団構成						現場条件による追加船団
	起重機船	引船①	引船②	台船	潜水士船	揚錨船	引船③
400t未満	非航旋回鋼D 150t吊	鋼D 700PS型	鋼D 1,000PS型	鋼 300t積	D270PS型 3～5t吊	鋼D 5t吊	鋼D PS型
400t~1,000t 〃			〃 1,200 〃				
1,000t~1,600t 〃			〃 1,500 〃				
1,600t~2,000t 〃			〃 2,000 〃				
2,000t~2,500t 〃	非航旋回鋼D 200t吊	鋼D 800PS型					
2,500t~4,500t 〃			〃 2,500 〃				
4,500t~5,500t 〃			〃 3,000 〃				

改定（令和８年度）

３－９－３－２　作業船の組合せ

１）作業船の組合せ

ケーソン質量	標準的な船団構成						現場条件による追加船団
	起重機船	引船①	引船②	台船	潜水士船	揚錨船	引船③
400t未満	非航旋回鋼D 150t吊	鋼D 700PS型	鋼D 1,000PS型	鋼 300t積	D320PS型 3～5t吊	鋼D 5t吊	鋼D PS型
400t~1,000t 〃			〃 1,200 〃				
1,000t~1,600t 〃			〃 1,500 〃				
1,600t~2,000t 〃			〃 2,000 〃				
2,000t~2,500t 〃	非航旋回鋼D 200t吊	鋼D 800PS型					
2,500t~4,500t 〃			〃 2,500 〃				
4,500t~5,500t 〃			〃 3,000 〃				

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

掲載頁：4節 本体工 4.1ケーソン式 P3-4.1-53

現行（令和７年度）

３）代価表

（1）ケーソン据付（ウインチ方式）　１函当り

名称	形状寸法	単位	数量 一連据付方式 起重機船方式 A	一連据付方式 起重機船方式 B	一連据付方式 起重機船・引船併用方式 A	一連据付方式 起重機船・引船併用方式 B	進水据付方式 起重機船方式 A	進水据付方式 起重機船方式 B	進水据付方式 起重機船・引船併用方式 A	進水据付方式 起重機船・引船併用方式 B	摘要
起重機船	非航旋回 鋼D t吊	日	1	2	1	2	0.5	1	0.5	1	運4H／就8H
台船	鋼 300t積	〃	1	2	1	2	0.5	1	0.5	1	就業8H
引船①	鋼D PS型	〃	1	2	1.5	3	0.5	1	1	2	運4H／就8H
引船②	鋼D PS型	〃	1								運：作業能力／就8H
引船③	鋼D PS型	〃									〃
潜水士船	D 270PS型 3～5t吊	〃	1	2	1	2	0.5	1	0.5	1	就業8H
揚錨船	鋼D 5t吊	〃	1	2	1	2	0.5	1	0.5	1	〃
特殊作業員		人	労務員数算定式による								
とび工		〃	〃								
普通作業員		〃	〃								
雑材料		%	2.5								発動発電機・水中ポンプ運転、ワイヤーロープ・鎖・ウインチ損料を含む

改定（令和８年度）

３）代価表

（1）ケーソン据付（ウインチ方式）　１函当り

名称	形状寸法	単位	数量 一連据付方式 起重機船方式 A	一連据付方式 起重機船方式 B	一連据付方式 起重機船・引船併用方式 A	一連据付方式 起重機船・引船併用方式 B	進水据付方式 起重機船方式 A	進水据付方式 起重機船方式 B	進水据付方式 起重機船・引船併用方式 A	進水据付方式 起重機船・引船併用方式 B	摘要
起重機船	非航旋回 鋼D t吊	日	1	2	1	2	0.5	1	0.5	1	運4H／就8H
台船	鋼 300t積	〃	1	2	1	2	0.5	1	0.5	1	就業8H
引船①	鋼D PS型	〃	1	2	1.5	3	0.5	1	1	2	運4H／就8H
引船②	鋼D PS型	〃	1								運：作業能力／就8H
引船③	鋼D PS型	〃									〃
潜水士船	D 320PS型 3～5t吊	〃	1	2	1	2	0.5	1	0.5	1	就業8H
揚錨船	鋼D 5t吊	〃	1	2	1	2	0.5	1	0.5	1	〃
特殊作業員		人	労務員数算定式による								
とび工		〃	〃								
普通作業員		〃	〃								
雑材料		%	2.5								発動発電機・水中ポンプ運転、ワイヤーロープ・鎖・ウインチ損料を含む

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲載頁

4節 本体工
4.1ケーソン式
P3-4.1-55

現行（令和７年度）

1）作業船の組合せ

ケーソン質量	標準的な船団構成						
	ケーソン据付準備				ケーソン据付		
	台船	引船	揚錨船	起重機船	引船①	引船②	引船③
200t～400t 未満	鋼500t積	鋼D500PS型	鋼 D10t吊	非航固定鋼 DE 500t吊	鋼D 3,000PS型	－	－
400t～1,000t 〃			〃 20 〃	〃 〃 1,400 〃		鋼D 3,000PS型	
1,000t～1,600t 〃			〃 25 〃	〃 〃 2,200 〃			
1,600t～2,000t 〃			〃 30 〃				
2,000t～3,000t 〃				〃 〃 3,700 〃	〃 4,000 〃	〃 4,000 〃	鋼D 3,000PS型

2）代価表
(1) ケーソン据付準備（吊降し方式）　１回当り

名称	形状寸法	単位	数量 海上 取付	海上 取外	陸上 取付	陸上 取外	摘要
起重機船	非航固定 鋼DE t吊	日	1	0.5	1	0.5	運4H／就8H
揚錨船	鋼D t吊	〃	1	0.5	1	0.5	就業8H
台船	鋼 500t積	〃	1	0.5	－	－	就業8H
引船	鋼D 500PS型	〃	1	0.5	－	－	運2H／就8H
吊金具	t用	〃	1	0.5	1	0.5	損料
吊ワイヤーロープ	φ mm	〃	1	0.5	1	0.5	損料
平衡滑車	t型	〃	1	0.5	1	0.5	損料
雑材料							

注）1.同一工事において吊点数の違う種類のケーソンを連続して据付する場合のセット替えについては取付歩掛のみ計上する。
2.吊金具損料は、吊枠損料を含まない。吊枠の改造、新規製作等が必要な場合は、別途計上することができる。
3.吊ワイヤーロープ損料は、「1点当りの損料×使用点数」とする。
4.平衡滑車損料は、「1基当りの損料×使用基数」とする。

改定（令和８年度）

1）作業船の組合せ

ケーソン質量	標準的な船団構成						
	ケーソン据付準備				ケーソン据付		
	台船	引船	揚錨船	起重機船	引船①	引船②	引船③
200t～400t 未満	鋼500t積	鋼D500PS型	鋼 D10t吊	非航固定鋼 DE 500t吊	鋼D 3,000PS型	－	－
400t～1,000t 〃			〃 20 〃	〃 〃 1,400 〃		鋼D 3,000PS型	
1,000t～1,600t 〃			〃 25 〃	〃 DH 2,200 〃			
1,600t～2,000t 〃			〃 30 〃				
2,000t～3,000t 〃				〃 DE 3,700 〃	〃 4,000 〃	〃 4,000 〃	鋼D 3,000PS型

2）代価表
(1) ケーソン据付準備（吊降し方式）　１回当り

名称	形状寸法	単位	数量 海上 取付	海上 取外	陸上 取付	陸上 取外	摘要
起重機船	非航固定 鋼DE･DH t吊	日	1	0.5	1	0.5	運4H／就8H
揚錨船	鋼D t吊	〃	1	0.5	1	0.5	就業8H
台船	鋼 500t積	〃	1	0.5	－	－	就業8H
引船	鋼D 500PS型	〃	1	0.5	－	－	運2H／就8H
吊金具	t用	〃	1	0.5	1	0.5	損料
吊ワイヤーロープ	φ mm	〃	1	0.5	1	0.5	損料
平衡滑車	t型	〃	1	0.5	1	0.5	損料
雑材料							

注）1.同一工事において吊点数の違う種類のケーソンを連続して据付する場合のセット替えについては取付歩掛のみ計上する。
2.吊金具損料は、吊枠損料を含まない。吊枠の改造、新規製作等が必要な場合は、別途計上することができる。
3.吊金具損料は、「1函当り損料×供用係数（α）」とする。
4.吊ワイヤーロープ損料は、「1点当り損料×使用点数×供用係数（α）」とする。
5.平衡滑車損料は、「1基当り損料×使用基数×供用係数（α）」とする。

コメント

起重機船（非航固定）
DE 2,000t吊、2,200t吊が現存しないため規格の見直し

4節 本体工
4.1ケーソン式
P3-4.1-56

コメント

記載の追記

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

4節 本体工 4－1ケーソン式 P3-4.1-57

現行（令和７年度）

(2) ケーソン据付（吊降し方式）　１日（　函）当り

名称	形状寸法	単位	数量 200t～400t未満	400t～700t未満	700t～1,000t未満	1,000t～1,600t未満	1,600t～2,000t未満	2,000t～3,000t未満	摘要
起重機船	非航固定 鋼DE　t吊	日	1						運：Tc／就8H
引船①	鋼D　PS型	〃	1						運：Tb／就8H
引船②	鋼D　PS型	〃	－	1					〃
引船③	鋼D　PS型	〃	－					1	〃
揚錨船	鋼D　t吊	〃	1						就業8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	1						〃
とび工		人	3	4	5	6	7		
普通作業員		〃	3	4	5	6	8		
吊金具	t用	日	1						損料
吊ワイヤーロープ	φ　mm	〃	1						損料
平衡滑車	t型	〃	1						損料
雑材料		%	1						発動発電機・水中ポンプ運転を含む

注）1.吊金具損料は、吊枠損料を含まない。吊枠の改造、新規製作等が必要な場合は、別途計上することができる。
2.吊ワイヤーロープ損料は、「1点当りの損料×使用点数」とする。
3.平衡滑車損料は、「1基当りの損料×使用基数」とする。

改定（令和８年度）

2）ケーソン据付（吊降し方式）　１日（　函）当り

名称	形状寸法	単位	数量 200t～400t未満	400t～700t未満	700t～1,000t未満	1,000t～1,600t未満	1,600t～2,000t未満	2,000t～3,000t未満	摘要
起重機船	非航固定 鋼DE･DH　t吊	日	1						運：Tc／就8H
引船①	鋼D　PS型	〃	1						運：Tb／就8H
引船②	鋼D　PS型	〃	－	1					〃
引船③	鋼D　PS型	〃	－					1	〃
揚錨船	鋼D　t吊	〃	1						就業8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	1						〃
とび工		人	3	4	5	6	7		
普通作業員		〃	3	4	5	6	8		
吊金具	t用	日	1						損料
吊ワイヤーロープ	φ　mm	〃	1						損料
平衡滑車	t型	〃	1						損料
雑材料		%	1						発動発電機・水中ポンプ運転を含む

注）1.吊金具損料は、吊枠損料を含まない。吊枠の改造、新規製作等が必要な場合は、別途計上することができる。
2.吊金具損料は、「1函当り損料×供用係数（α）」とする。
3.吊ワイヤーロープ損料は、「1点当り損料×使用点数×供用係数（α）」とする
4.平衡滑車損料は、「1基当り損料×使用基数×供用係数（α）」とする。

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

記載の追記

4節 本体工 4－1ケーソン式 参考資料－2 ケーソン据付（吊降し方式、N工程）歩掛 P3-4.1-(3)

現行（令和７年度）

２．作業船、機械の組合せ

１）作業船の組合せ

ケーソン質量	標準的な船団構成 ケーソン据付準備 台船	引船	ケーソン据付 揚錨船	起重機船	引船①	引船②	引船③
200t～400t未満	鋼500t積	鋼D500PS型	鋼 D10t吊	非航固定鋼 DE　500t吊	鋼D 3,000PS型	－	－
400t～1,000t〃			〃20〃	〃 1,400〃		鋼D 3,000PS型	
1,000t～1,600t〃			〃25〃	〃 2,200〃			
1,600t～2,000t〃			〃30〃				
2,000t～3,000t〃				〃 3,700〃	〃4,000〃	〃4,000〃	鋼D 3,000PS型

改定（令和８年度）

２．作業船、機械の組合せ

１）作業船の組合せ

ケーソン質量	標準的な船団構成 ケーソン据付準備 台船	引船	ケーソン据付 揚錨船	起重機船	引船①	引船②	引船③
200t～400t未満	鋼500t積	鋼D500PS型	鋼 D10t吊	非航固定鋼 DE　500t吊	鋼D 3,000PS型	－	－
400t～1,000t〃			〃20〃	〃 1,400〃		鋼D 3,000PS型	
1,000t～1,600t〃			〃25〃	〃 DH 2,200〃			
1,600t～2,000t〃			〃30〃				
2,000t～3,000t〃				〃 DE 3,700〃	〃4,000〃	〃4,000〃	鋼D 3,000PS型

コメント

起重機船（非航固定）DE 2,000t吊、2,200t吊が現存しないため規格の見直し

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲載頁

4節 本体工
4－1ケーソン式

参考資料－2
ケーソン据付
（吊降し方式、N工程）歩掛

P3-4.1-(4)

現行（令和７年度）

４．代価表
１）ケーソン据付（吊降し方式、Ｎ工程）　１函当り

名称	形状寸法	単位	数量 200t～400t未満	400t～700t未満	700t～1,000t未満	1,000t～1,600t未満	1,600t～2,000t未満	2,000t～3,000t未満	摘要
起重機船	非航固定 鋼DE t吊	日	N₁						運6H/就8H
引船①	鋼D PS型	〃	N₁						運：T₁/就8H
引船②	鋼D PS型	〃	－	N₁					〃
引船③	鋼D PS型	〃	－					N₁	〃
揚錨船	鋼D t吊	〃	N₁						就業8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	N₁						〃
とび工		人	3×N₁	4×N₁	5×N₁	6×N₁	7×N₁		
普通作業員		〃	3×N₁	4×N₁	5×N₁	6×N₁	8×N₁		
吊金具	t用	日	N₁						損料
吊ワイヤーロープ	φ mm	〃	N₁						損料
平衡滑車	t型	〃	N₁						損料
雑材料		%	1						発動発電機・水中ポンプ運転を含む

改定（令和８年度）

４．代価表
１）ケーソン据付（吊降し方式、Ｎ工程）　１函当り

名称	形状寸法	単位	数量 200t～400t未満	400t～700t未満	700t～1,000t未満	1,000t～1,600t未満	1,600t～2,000t未満	2,000t～3,000t未満	摘要
起重機船	非航固定 鋼DE・DH t吊	日	N₁						運6H/就8H
引船①	鋼D PS型	〃	N₁						運：T₁/就8H
引船②	鋼D PS型	〃	－	N₁					〃
引船③	鋼D PS型	〃	－					N₁	〃
揚錨船	鋼D t吊	〃	N₁						就業8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	N₁						〃
とび工		人	3×N₁	4×N₁	5×N₁	6×N₁	7×N₁		
普通作業員		〃	3×N₁	4×N₁	5×N₁	6×N₁	8×N₁		
吊金具	t用	日	N₁						損料
吊ワイヤーロープ	φ mm	〃	N₁						損料
平衡滑車	t型	〃	N₁						損料
雑材料		%	1						発動発電機・水中ポンプ運転を含む

コメント：潜水士船の大型化による基準改定

4節 本体工
4．2ブロック式

P3-4.2-15

現行（令和７年度）

３－１－４－１　陸上作業

ブロック質量	転置、運搬、据付（陸上連携方式、陸海一貫方式）、横持ち ラフテレーンクレーン	クローラクレーン	ﾄﾗｯｸまたはﾄﾚｰﾗ
4.5t以下	（油） 25 t吊	－	11t積
4.5t超え7.5t〃	（〃） 35 〃		11 〃
7.5t〃12.5t〃	（〃） 50 〃		25 〃
12.5t〃22.0t〃	（〃） 50 〃		25 〃
22.0t〃31.0t〃	－	（油） 100 t吊	32 〃
31.0t〃37.5t〃		（〃） 150 〃	40 〃
37.5t〃50.0t〃			50 〃
50.0t〃70.0t〃		（〃） 200 〃	60または70〃
70.0t〃100.0t〃			現場条件による

改定（令和８年度）

３－１－４－１　陸上作業

ブロック質量	転置、運搬、据付（陸上連携方式、陸海一貫方式）、横持ち ラフテレーンクレーン	クローラクレーン	ﾄﾗｯｸまたはﾄﾚｰﾗ
4.5t以下	（油） 25 t吊	－	11t積級
4.5t超え7.5t〃	（〃） 35 〃		11 〃
7.5t〃12.5t〃	（〃） 50 〃		25 〃
12.5t〃22.0t〃	（〃） 50 〃		25 〃
22.0t〃31.0t〃	－	（油） 100 t吊	32 〃
31.0t〃37.5t〃		（〃） 150 〃	40 〃
37.5t〃50.0t〃			50 〃
50.0t〃70.0t〃		（〃） 200 〃	60または70〃
70.0t〃100.0t〃			現場条件による

コメント：機械器具等損料改定に伴う変更

4節 本体工
4．2ブロック式
P3-4.2-17

現行（令和７年度）

３）代価表
（1）ブロック転置　１日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量 陸上	数量 海上	摘要
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	（油） t吊	日	1	－	標準運転時間
ｸﾚｰﾝ付台船または起重機船	t吊 非航旋回 鋼D t吊	〃	－	1	運6H／就8H
引船	鋼D PS型	〃	－	1	運2H／就8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃			就業8H
とび工		人			
普通作業員		〃			
雑材料					

改定（令和８年度）

３）代価表
（1）ブロック転置　１日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量 陸上	数量 海上	摘要
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	（油） t吊	日	1	－	標準運転時間
ｸﾚｰﾝ付台船または起重機船	t吊 非航旋回 鋼D t吊	〃	－	1	運6H／就8H
引船	鋼D PS型	〃	－	1	運2H／就8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃			就業8H
とび工		人			
普通作業員		〃			
雑材料					

コメント：潜水士船の大型化による基準改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

4節 本体工　4．2ブロック式　P3-4.2－19

現行（令和７年度）

3）代価表
(1) ブロック据付（１スイング）　１日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量 陸上	数量 海上	摘要
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油)　t吊	日	1	－	標準運転時間
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回 鋼D　t吊	〃	－	1	運6H／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	－	1	運2H／就8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃			就業8H
とび工		人			
普通作業員		〃			
雑材料					

改定（令和８年度）

3）代価表
(1) ブロック据付（１スイング）　１日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量 陸上	数量 海上	摘要
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油)　t吊	日	1	－	標準運転時間
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回 鋼D　t吊	〃	－	1	運6H／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	－	1	運2H／就8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃			就業8H
とび工		人			
普通作業員		〃			
雑材料					

コメント：潜水士船の大型化による基準改定

4節 本体工　4．2ブロック式　P3-4.2－22

現行（令和７年度）

3）代価表
(1) ブロック運搬据付・仮置(陸上連携方式)　１日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油)　t吊	日	1	据付・仮置用 標準運転時間
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油)　t吊	〃	1	積込用 標準運転時間
トラックまたはトレーラ	t積	〃		標準運転時間
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃		就業8H
とび工		人		
普通作業員		〃		
雑材料				

改定（令和８年度）

3）代価表
(1) ブロック運搬据付・仮置(陸上連携方式)　１日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油)　t吊	日	1	据付・仮置用 標準運転時間
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油)　t吊	〃	1	積込用 標準運転時間
トラックまたはトレーラ	t積級	〃		標準運転時間
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃		就業8H
とび工		人		
普通作業員		〃		
雑材料				

コメント：機械器具等損料改定に伴う変更

潜水士船の大型化による基準改定

4節 本体工　4．2ブロック式　P3-4.2－25

現行（令和７年度）

3）代価表
(1) ブロック運搬据付・仮置(海上一連方式)　１日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回 鋼D t吊	日	1	運:作業能力／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	1	〃
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃		就業8H
とび工		人		
普通作業員		〃		
雑材料				

改定（令和８年度）

3）代価表
(1) ブロック運搬据付・仮置(海上一連方式)　１日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回 鋼D t吊	日	1	運:作業能力／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	1	〃
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃		就業8H
とび工		人		
普通作業員		〃		
雑材料				

コメント：潜水士船の大型化による基準改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

4節 本体工　4. 2 ブロック式　P3-4.2-29

現行（令和７年度）

3）代価表
(1) ブロック運搬据付・仮置(陸海一貫方式)　1日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
ラフテレーンクレーン または クローラクレーン	(油)　t吊	日	1	標準運転時間
トラック または トレーラ	t積	〃		〃
クレーン付台船 または 起重機船	t吊 非航旋回 鋼D　t吊	〃	1	運:作業能力／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	1	〃
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃		就業8H
とび工		人		
普通作業員		〃		
雑材料				

改定（令和８年度）

3）代価表
(1) ブロック運搬据付・仮置(陸海一貫方式)　1日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
ラフテレーンクレーン または クローラクレーン	(油)　t吊	日	1	標準運転時間
トラック または トレーラ	t積級	〃		〃
クレーン付台船 または 起重機船	t吊 非航旋回 鋼D　t吊	〃	1	運:作業能力／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	1	〃
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃		就業8H
とび工		人		
普通作業員		〃		
雑材料				

コメント

機械器具等損料改定に伴う変更

潜水士船の大型化による基準改定

4節 本体工　4. 2ブロック式　参考資料－1 大型ブロックの据付歩掛　P3-4.2-(2)

現行（令和７年度）

3）代価表
(1) 大型ブロック運搬据付・仮置(海上一連方式)　1日(　)個当り

名称	形状寸法	単位	数量 旋回式	数量 固定式	摘要
起重機船	非航旋回 鋼D　t吊	日	1	－	運：作業能力／就8H
	非航固定 鋼D(DE)　t吊	〃	－	1	
台船	鋼　t積	〃	－	1	就業8H
引船	鋼D　PS型	〃	1		運：作業能力／就8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃			就業8H
とび工		人			
普通作業員		〃			
雑材料					

改定（令和８年度）

3）代価表
(1) 大型ブロック運搬据付・仮置(海上一連方式)　1日(　)個当り

名称	形状寸法	単位	数量 旋回式	数量 固定式	摘要
起重機船	非航旋回 鋼D　t吊	日	1	－	運：作業能力／就8H
	非航固定 鋼D(DE)　t吊	〃	－	1	
台船	鋼　t積	〃	－	1	就業8H
引船	鋼D　PS型	〃	1		運：作業能力／就8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃			就業8H
とび工		人			
普通作業員		〃			
雑材料					

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
4節 本体工 4. 3 場所打式 P3-4.3-9	4）代価表 （1）鋼製型枠組立組外　100m²当り **３－５－２　施工歩掛** 1）代価表 （1）漏えい防止シート敷設　100m²当り 注）本表には砂袋等の根固め作業を含む。	4）代価表 （1）鋼製型枠組立組外　100m²当り **３－５－２　施工歩掛** 1）代価表 （1）漏えい防止シート敷設　100m²当り 注）本表には砂袋等の根固め作業を含む。	潜水士船の大型化による基準改定

（1）鋼製型枠組立組外　100m²当り

名　称	形状寸法	単位	数量 陸上施工	数量 海上施工	摘　要
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油)　t吊	日	1.4		標準運転時間（組立・解体用）
		〃	2.6	－	〃　（設置・撤去用）
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回翼D　t吊	〃	－	1.9	運6H／就8H（設置・撤去用）
引船	鋼D　PS型	〃	－	1.9	運4H／就8H
台船	鋼100t積	〃		－	就業8H
引船	鋼D200PS型	〃		－	運4H／就8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	2.2		就業8H
世話役		人	5.2		
型枠工		〃	9.1		
特殊作業員		〃	4.4		
普通作業員		〃	17.0		
型枠賃料		m²	100		
消耗費		%	15		労務費の%
雑材料					

（1）漏えい防止シート敷設　100m²当り

名　称	形状寸法	単位	数量	摘　要
シート		m²	130	割増しを含む
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	0.5	就業8H
普通作業員		人	1.3	
雑材料				

（1）鋼製型枠組立組外　100m²当り

名　称	形状寸法	単位	数量 陸上施工	数量 海上施工	摘　要
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油)　t吊	日	1.4		標準運転時間（組立・解体用）
		〃	2.6	－	〃　（設置・撤去用）
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回翼D　t吊	〃	－	1.9	運6H／就8H（設置・撤去用）
引船	鋼D　PS型	〃	－	1.9	運4H／就8H
台船	鋼100t積	〃		－	就業8H
引船	鋼D200PS型	〃		－	運4H／就8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	2.2		就業8H
世話役		人	5.2		
型枠工		〃	9.1		
特殊作業員		〃	4.4		
普通作業員		〃	17.0		
型枠賃料		m²	100		
消耗費		%	15		労務費の%
雑材料					

（1）漏えい防止シート敷設　100m²当り

名　称	形状寸法	単位	数量	摘　要
シート		m²	130	割増しを含む
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	0.5	就業8H
普通作業員		人	1.3	
雑材料				

注）本表には砂袋等の根固め作業を含む。

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント

4節 本体工 4. 3 場所打式 P3-4.3-11

現行（令和７年度）

2）代価表

(1) 水中コンクリート打設(ケーシング打設)　10m³当り

名　称	形状寸法	単位	設計日当打設量 50m³未満	設計日当打設量 50m³以上 100m³未満	設計日当打設量 100m³以上	摘　要
			標準日打設量 33	標準日打設量 68	標準日打設量 165	
水中コンクリート		m³	10.6			割増しを含む
コンクリートポンプ車	ブーム式 90～110m³/h	日	0.2	0.1	0.1	標準運転時間
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油)　t吊	〃	(0.2)	(0.1)	(0.1)	標準運転時間 注)3.参照
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回鋼D　t吊		(0.2)	(0.1)	(0.1)	運6H/就8H 注)3.参照
引船	鋼D　PS型	〃	(0.2)	(0.1)	(0.1)	運2H/就8H 注)3.参照
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	0.2	0.1	0.1	就業8H
世話役		人	0.3	0.2	0.1	
特殊作業員		〃	0.4	0.2	0.1	
普通作業員		〃	1.1	0.6	0.2	
雑材料						

改定（令和８年度）

2）代価表

(1) 水中コンクリート打設(ケーシング打設)　10m³当り

名　称	形状寸法	単位	設計日当打設量 50m³未満	設計日当打設量 50m³以上 100m³未満	設計日当打設量 100m³以上	摘　要
			標準日打設量 33	標準日打設量 68	標準日打設量 165	
水中コンクリート		m³	10.6			割増しを含む
コンクリートポンプ車	ブーム式 90～110m³/h	日	0.2	0.1	0.1	標準運転時間
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	(油)　t吊	〃	(0.2)	(0.1)	(0.1)	標準運転時間 注)3.参照
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回鋼D　t吊		(0.2)	(0.1)	(0.1)	運6H/就8H 注)3.参照
引船	鋼D　PS型	〃	(0.2)	(0.1)	(0.1)	運2H/就8H 注)3.参照
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	0.2	0.1	0.1	就業8H
世話役		人	0.3	0.2	0.1	
特殊作業員		〃	0.4	0.2	0.1	
普通作業員		〃	1.1	0.6	0.2	
雑材料						

コメント：潜水士船の大型化による基準改定

4節 本体工 4. 3 場所打式 P3-4.3-12

現行（令和７年度）

(5) 水中コンクリート打設(ポンプ車直接打設)　10m³当り

名　称	形状寸法	単位	設計日当打設量 50m³未満	設計日当打設量 50m³以上 100m³未満	設計日当打設量 100m³以上	摘　要
			標準日打設量 31	標準日打設量 69	標準日打設量 180	
水中コンクリート		m³	10.6			割増しを含む
コンクリートポンプ車	ブーム式 90～110m³/h	日	0.2	0.1	0.1	標準運転時間
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	0.1	0.1	0.1	就業8H
世話役		人	0.3	0.1	0.1	
特殊作業員		〃	0.4	0.2	0.1	
普通作業員		〃	0.9	0.4	0.2	
雑材料						

改定（令和８年度）

(5) 水中コンクリート打設(ポンプ車直接打設)　10m³当り

名　称	形状寸法	単位	設計日当打設量 50m³未満	設計日当打設量 50m³以上 100m³未満	設計日当打設量 100m³以上	摘　要
			標準日打設量 31	標準日打設量 69	標準日打設量 180	
水中コンクリート		m³	10.6			割増しを含む
コンクリートポンプ車	ブーム式 90～110m³/h	日	0.2	0.1	0.1	標準運転時間
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	0.1	0.1	0.1	就業8H
世話役		人	0.3	0.1	0.1	
特殊作業員		〃	0.4	0.2	0.1	
普通作業員		〃	0.9	0.4	0.2	
雑材料						

コメント：潜水士船の大型化による基準改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>4節 本体工
4．3 場所打式
P3-4.3-14</td><td>(3) 水中不分離性コンクリート打設(ポンプ車直接打設)　10m³当り
<table><tr><th rowspan="3">名　称</th><th rowspan="3">形 状 寸 法</th><th rowspan="3">単位</th><th colspan="3">設 計 日 当 打 設 量</th><th rowspan="3">摘　要</th></tr><tr><th>50m³ 未満</th><th>50m³ 以上
100m³ 未満</th><th>100m³ 以上</th></tr><tr><th colspan="3">標 準 日 打 設 量</th></tr><tr><th></th><th></th><th></th><th>31</th><th>69</th><th>180</th><th></th></tr><tr><td>水中不分離性ｺﾝｸﾘｰﾄ</td><td></td><td>m³</td><td colspan="3">10.6</td><td>割増しを含む</td></tr><tr><td>ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車</td><td>ブーム式
90～110m³/h</td><td>日</td><td>0.2</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>潜　水　士　船</td><td>D270PS型 3～5t吊</td><td>〃</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>就業8H</td></tr><tr><td>世　話　役</td><td></td><td>人</td><td>0.3</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td></td></tr><tr><td>特 殊 作 業 員</td><td></td><td>〃</td><td>0.4</td><td>0.2</td><td>0.1</td><td></td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td></td><td>〃</td><td>0.9</td><td>0.4</td><td>0.2</td><td></td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td>水中不分離性
混和剤現場添加</td><td>〃</td><td>(0.3)</td><td>(0.2)</td><td>(0.1)</td><td>注)2．参照</td></tr><tr><td>雑　材　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td><td>(3) 水中不分離性コンクリート打設(ポンプ車直接打設)　10m³当り
<table><tr><th rowspan="3">名　称</th><th rowspan="3">形 状 寸 法</th><th rowspan="3">単位</th><th colspan="3">設 計 日 当 打 設 量</th><th rowspan="3">摘　要</th></tr><tr><th>50m³ 未満</th><th>50m³ 以上
100m³ 未満</th><th>100m³ 以上</th></tr><tr><th colspan="3">標 準 日 打 設 量</th></tr><tr><th></th><th></th><th></th><th>31</th><th>69</th><th>180</th><th></th></tr><tr><td>水中不分離性ｺﾝｸﾘｰﾄ</td><td></td><td>m³</td><td colspan="3">10.6</td><td>割増しを含む</td></tr><tr><td>ｺﾝｸﾘｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ車</td><td>ブーム式
90～110m³/h</td><td>日</td><td>0.2</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>潜　水　士　船</td><td>D320PS型 3～5t吊</td><td>〃</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td>就業8H</td></tr><tr><td>世　話　役</td><td></td><td>人</td><td>0.3</td><td>0.1</td><td>0.1</td><td></td></tr><tr><td>特 殊 作 業 員</td><td></td><td>〃</td><td>0.4</td><td>0.2</td><td>0.1</td><td></td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td></td><td>〃</td><td>0.9</td><td>0.4</td><td>0.2</td><td></td></tr><tr><td>普 通 作 業 員</td><td>水中不分離性
混和剤現場添加</td><td>〃</td><td>(0.3)</td><td>(0.2)</td><td>(0.1)</td><td>注)2．参照</td></tr><tr><td>雑　材　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td><td>潜水士船の大型化による基準改定</td></tr>
<tr><td>4節 本体工
4.5 鋼矢板式
目次</td><td>参考資料
参考資料－１　鋼矢板打設（Ｕ形矢板、組合せ矢板） ---------- 3-4.5-(1)
参考資料－２　鋼矢板打設（ディーゼルハンマ） ---------- 3-4.5-(6)
参考資料－３　受杭打設（木杭） ---------- 3-4.5-(10)

補足資料
補足資料－１　本体工（鋼矢板式、鋼杭式共通） ---------- 3-4.5-(12)</td><td>参考資料
参考資料－１　鋼矢板打設（Ｕ形矢板、組合せ矢板） ---------- 3-4.5-(1)
参考資料－２　受杭打設（木杭） ---------- 3-4.5-(6)

補足資料
補足資料－１　本体工（鋼矢板式、鋼杭式共通） ---------- 3-4.5-(8)</td><td>クローラ式杭打機損料削除に伴う基準の削除

項番号の修正</td></tr>
<tr><td>4節 本体工
4.5 鋼矢板式
P3-4.5-9</td><td>２－１－３－２－２　作業船・機械の組合せ
<table><tr><th rowspan="2">区　分</th><th>積　込</th><th colspan="3">運　搬</th></tr><tr><th>トラッククレーンまたは
ラフテレーンクレーン</th><th>トレーラ</th><th>台　船</th><th>引　船</th></tr><tr><td>陸上運搬</td><td>（油）　ｔ吊</td><td>20ｔ積</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>海上運搬</td><td>（油）　ｔ吊</td><td>－</td><td>鋼　ｔ積</td><td>鋼Ｄ　PS型</td></tr></table>注）1.陸上運搬・海上運搬とも可能な場合は、陸上運搬とする。
2.トラッククレーンまたはラフテレーンクレーンの規格は、吊荷重と作業半径から決定する（「第２章 工事費の積算、１節直接工事費、付属資料－１　作業能力等、１．起重機船、クレーン等の規格と性能」を参照 ）。
3.トレーラ（20t積）の最大積載長は18mとする。なお、18mを超える積載物の場合は別途積載可能なトレーラを選定する。また、積載物の長さにより、トレーラをトラック（11ｔ積）にすることができる。
4.台船および引船の規格は、積載物の長さから下表により決定する。</td><td>２－１－３－２－２　作業船・機械の組合せ
<table><tr><th rowspan="2">区　分</th><th>積　込</th><th colspan="3">運　搬</th></tr><tr><th>トラッククレーンまたは
ラフテレーンクレーン</th><th>トレーラ</th><th>台　船</th><th>引　船</th></tr><tr><td>陸上運搬</td><td>（油）　ｔ吊</td><td>20ｔ積級</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>海上運搬</td><td>（油）　ｔ吊</td><td>－</td><td>鋼　ｔ積</td><td>鋼Ｄ　PS型</td></tr></table>注）1.陸上運搬・海上運搬とも可能な場合は、陸上運搬とする。
2.トラッククレーンまたはラフテレーンクレーンの規格は、吊荷重と作業半径から決定する（「第２章 工事費の積算、１節直接工事費、付属資料－１　作業能力等、１．起重機船、クレーン等の規格と性能」を参照 ）。
3.トレーラ（20t積級）の最大積載長は18mとする。なお、18mを超える積載物の場合は別途積載可能なトレーラを選定する。また、積載物の長さにより、トレーラをトラック（11ｔ積級）にすることができる。
4.台船および引船の規格は、積載物の長さから下表により決定する。</td><td>機械器具等損料改定に伴う変更</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲載頁：4節 本体工 4.5 鋼矢板式 P3-4.5-10

現行（令和７年度）

3）代価表

(1) 鋼矢板・鋼管矢板運搬　1日（　枚・本）当り

名称	形状寸法	単位	数量 陸上	数量 海上	摘要
台木	杉角10×10cm	m^3	0.4	0.5	購入価格×1/5
トラッククレーン または ラフテレーンクレーン	（油）　t吊	日	2		標準運転時間
トレーラ	20ｔ積	〃		－	標準運転時間
台船	鋼　t積	〃	－	1	就業8H
引船	鋼D　PS型	〃	－	1	運：作業能力／就8H
とび工		人	4	3	
普通作業員		〃	4	3	
雑材料					

注）1.トラッククレーンまたはラフテレーンクレーンの規格は、吊荷重と作業半径から決定する（**「第２章 工事費の積算、１節直接工事費、付属資料－１　作業能力等、１．起重機船、クレーン等の規格と性能」**を参照 ）。
2.トレーラ（20t積）の最大積載長は18mとする。なお、18mを超える積載物の場合は別途積載可能なトレーラを選定する。また、積載物の長さにより、トレーラをトラック（11ｔ積）にすることができる。
3.台船および引船の規格は、積載物の長さから決定する。

改定（令和８年度）

3）代価表

(1) 鋼矢板・鋼管矢板運搬　1日（　枚・本）当り

名称	形状寸法	単位	数量 陸上	数量 海上	摘要
台木	杉角10×10cm	m^3	0.4	0.5	購入価格×1/5
トラッククレーン または ラフテレーンクレーン	（油）　t吊	日	2		標準運転時間
トレーラ	20ｔ積級	〃		－	標準運転時間
台船	鋼　t積	〃	－	1	就業8H
引船	鋼D　PS型	〃	－	1	運：作業能力／就8H
とび工		人	4	3	
普通作業員		〃	4	3	
雑材料					

注）1.トラッククレーンまたはラフテレーンクレーンの規格は、吊荷重と作業半径から決定する（**「第２章 工事費の積算、１節直接工事費、付属資料－１　作業能力等、１．起重機船クレーン等の規格と性能」**を参照 ）。
2.トレーラ（20t積級）の最大積載長は18mとする。なお、18mを超える積載物の場合は別途積載可能なトレーラを選定する。また、積載物の長さにより、トレーラをトラック（11ｔ積級）にすることができる。
3.台船および引船の規格は、積載物の長さから決定する。

コメント

機械器具等損料改定に伴う変更

掲載頁：4節 本体工 4.5 鋼矢板式 P3-4.5-11

現行（令和７年度）

注）バイブロハンマによる施工歩掛は、現場条件を勘案の上、**「１６節　仮設工」**によることができる。ただし、現場条件・土質条件の制約がある場合は、下表を標準に選定する。

条件区分	ハンマ形式 ＼ 打設工法	打撃工法 ﾃﾞｨｰｾﾞﾙﾊﾝﾏ	打撃工法 油圧ハンマ	振動工法 ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ	振動工法 (ｼﾞｪｯﾄ併用)
現場条件	騒音への配慮が必要な場合	－	○	○	○
	振動への配慮が必要な場合	－	－	－	○
	油飛散等への配慮が必要な場合	－	○	○	○
土質条件	支持層へ打込む、または中間層を打抜く場合	○	○	－	○

注）表中の○印は標準適用工法を示す。

改定（令和８年度）

注）バイブロハンマによる施工歩掛は、現場条件を勘案の上、**「１６節　仮設工」**によることができる。ただし、現場条件・土質条件の制約がある場合は、下表を標準に選定する。

条件区分	ハンマ形式 ＼ 打設工法	打撃工法	振動工法 油圧ハンマ	振動工法 ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ	振動工法 (ｼﾞｪｯﾄ併用)
現場条件	騒音への配慮が必要な場合		○	○	○
	振動への配慮が必要な場合		－	－	○
	油飛散等への配慮が必要な場合		○	○	○
土質条件	支持層へ打込む、または中間層を打抜く場合		○	－	○

注）表中の○印は標準適用工法を示す。

コメント

クローラ式杭打機損料削除に伴う基準の削除

掲載頁：4節 本体工 4.5 鋼矢板式 P3-4.5-15

現行（令和７年度）

(2) 海上打設

ハンマ形式	ハンマ規格（ラム質量）	標準的な船団構成 杭打船	台船	揚錨船	現場条件による追加船団 引船	潜水士船
油圧ハンマ	4～4.5 t	H－65	鋼　t積	鋼D5t吊	鋼D　PS型	D270PS型 3～5t吊
	6.5 〃					
	7～8 〃	H-125				
	10～12.5〃					
	15 〃	H-150				

改定（令和８年度）

(2) 海上打設

ハンマ形式	ハンマ規格（ラム質量）	標準的な船団構成 杭打船	台船	揚錨船	現場条件による追加船団 引船	潜水士船
油圧ハンマ	4～4.5 t	H－65	鋼　t積	鋼D5t吊	鋼D　PS型	D320PS型 3～5t吊
	6.5 〃					
	7～8 〃	H-125				
	10～12.5〃					
	15 〃	H-150				

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

4節 本体工　4.5 鋼矢板式　P3-4.5-18

現行（令和７年度）

4）代価表
(1) 鋼管矢板打設　　1日（　本）当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			陸上打設	海上打設	
クローラ式杭打機	t	日	1	—	標準運転時間
杭打船	H-	〃	—	1	運6H／就8H
台船	鋼　t積	〃	—	1	就業8H
引船	鋼D　PS型	〃	—		運2H／就8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	—		就業8H
揚錨船	鋼D5t吊	〃	—	1	〃
クローラクレーン	(油)　t吊	〃		—	標準運転時間
世話役		人			
とび工		〃			
普通作業員		〃			
溶接工		〃			
溶接機	半自動 500A	日			
発動発電機	kVA	〃			
雑材料					

改定（令和８年度）

4）代価表
(1) 鋼管矢板打設　　1日（　本）当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			陸上打設	海上打設	
クローラ式杭打機	t	日	1	—	標準運転時間
杭打船	H-	〃	—	1	運6H／就8H
台船	鋼　t積	〃	—	1	就業8H
引船	鋼D　PS型	〃	—		運2H／就8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	—		就業8H
揚錨船	鋼D5t吊	〃	—	1	〃
クローラクレーン	(油)　t吊	〃		—	標準運転時間
世話役		人			
とび工		〃			
普通作業員		〃			
溶接工		〃			
溶接機	半自動 500A	日			
発動発電機	kVA	〃			
雑材料					

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

4節 本体工　4.5 鋼矢板式　参考資料－1 鋼矢板打設（U形矢板、組合せ矢板）　P3-4.5-(5)

現行（令和７年度）

4）代価表
(1) 鋼矢板打設（U形矢板、組合せ矢板）　1日（　枚）当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			陸上打設	海上打設	
クローラ式杭打機	t	日	1	—	標準運転時間
杭打船	H-	〃	—	1	運6H／就8H
台船	鋼　t積	〃	—	1	就業8H
引船	鋼D　PS型	〃	—		運2H／就8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃	—		就業8H
揚錨船	鋼D5t吊	〃	—	1	〃
クローラクレーン	(油)　t吊	〃		—	標準運転時間
世話役		人			
とび工		〃			
普通作業員		〃			
雑材料					

改定（令和８年度）

4）代価表
(1) 鋼矢板打設（U形矢板、組合せ矢板）　1日（　枚）当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			陸上打設	海上打設	
クローラ式杭打機	t	日	1	—	標準運転時間
杭打船	H-	〃	—	1	運6H／就8H
台船	鋼　t積	〃	—	1	就業8H
引船	鋼D　PS型	〃	—		運2H／就8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃	—		就業8H
揚錨船	鋼D5t吊	〃	—	1	〃
クローラクレーン	(油)　t吊	〃		—	標準運転時間
世話役		人			
とび工		〃			
普通作業員		〃			
雑材料					

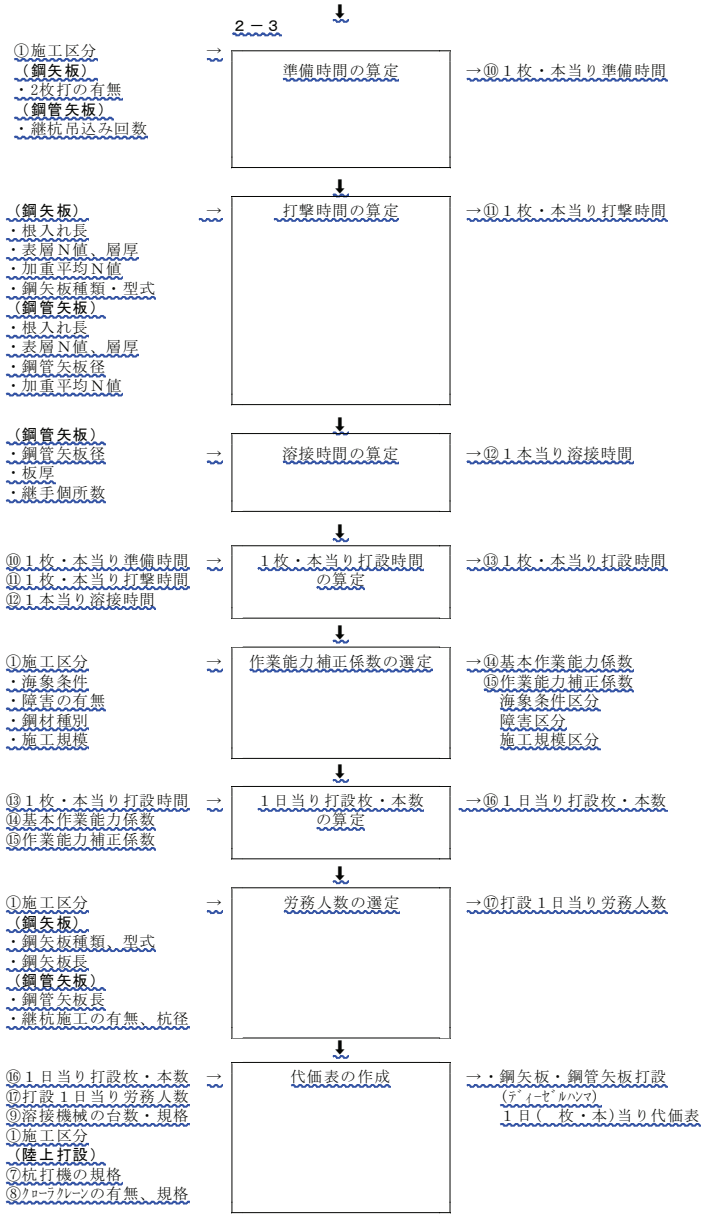
コメント

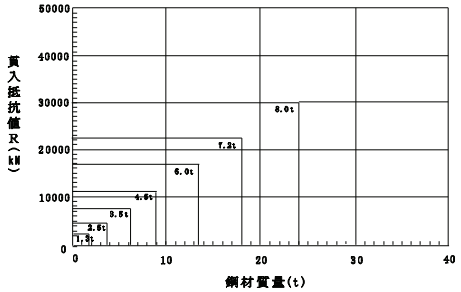
潜水士船の大型化による基準改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
4節 本体工 4.5 鋼矢板式 参考資料－２ 鋼矢板打設（ﾃﾞｨｰｾﾞﾙﾊﾝﾏ） P3-4.5-(6)	**参考資料－２　鋼矢板打設（ディーゼルハンマ）** １．適用範囲 本項は、鋼矢板打設（鋼管矢板）及び鋼矢板打設（U形矢板、組合せ矢板）のうちディーゼルハンマによる打設に適用する。 ２．鋼矢板打設（ディーゼルハンマ） ２－１　代価表作成手順 [鋼矢板・鋼管矢板打設の積算] ２－２ ・施工場所 → 施工区分の選定 →①施工区分（陸上打設） ↓ （鋼矢板） ・種類、型式 ・鋼矢板長 ・２枚打ちの有無 （鋼管矢板） ・鋼管矢板径、肉厚 ・鋼管矢板長 → 鋼材諸元の選定 →（鋼矢板）②先端閉塞換算面積 ③周辺長 ④鋼材質量 （鋼管矢板）④鋼材質量 ↓ （鋼矢板） ②先端閉塞換算面積 ③周辺長 ・根入れ長 ・先端地盤のＮ値 ・周辺地盤の加重平均Ｎ値 （鋼管矢板） ・鋼管矢板径 ・根入れ長 ・先端地盤のＮ値 ・周辺地盤の加重平均Ｎ値 → 貫入抵抗値の算出 →⑤貫入抵抗値 ↓ ・ハンマ形式 → ハンマ規格の決定 →⑥ハンマ形式・規格 ④鋼材質量 ⑤貫入抵抗値 ↕ ・中間層を打抜く場合 → 規格を１ﾗﾝｸ上に変更 ↓ ⑥ハンマ形式・規格 → 機械の規格選定 →（陸上打設）⑦杭打機の規格 ⑧ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝの規格 ①施工区分 （陸上打設） ・鋼材種別 ↕ ・ハンマ選択条件 → 規格・組合せの変更 ↓ （鋼管矢板） ・継杭施工の有無、杭径 → 継手溶接機械の選定 →⑨溶接機械の台数・規格 ↓ ・施工場所 → 水雷・傷害保険の検討 →・必要な場合は水雷・傷害保険料を計上（共通仮設費） ↓		クローラ式杭打機損料削除に伴う基準の削除

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
4節 本体工 4.5 鋼矢板式 参考資料－２ 鋼矢板打設（ﾃﾞｨｰｾﾞﾙﾊﾝﾏ） P3-4.5-(6) P3-4.5-(7)			クローラ式杭打機損料削除に伴う基準の削除

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
4節 本体工 4.5 鋼矢板式 参考資料－２ 鋼矢板打設（ﾃﾞｨｰｾﾞﾙﾊﾝﾏ） P3-4.5-(8)	**２－２　打設方式・規格** １）ハンマ規格の決定 ディーゼルハンマの規格は、以下を標準に決定する。 (1) ディーゼルハンマ規格決定図  注）図において、1.3tは陸上打設のみの適用範囲とする。 ディーゼルハンマの規格選定境界値 （表） 注）1.Ｎ値30以上で層厚3m以上の中間層を打抜く場合は、１ランク上のハンマ規格を選定する。 2.鋼矢板２枚打の場合は、ハンマ規格決定図の鋼材質量を１枚当り数値の２倍とする。 (2) 貫入抵抗値 鋼管矢板は、**「第４節　本体工、４．５　鋼矢板式、２－１－４－２　鋼矢板打設（鋼管矢板）、２－１－４－２－２　打設方法・規格、１）ハンマ規格の決定、(2)貫入抵抗値」**を適用する。 鋼矢板（Ｕ形矢板、組合せ矢板）は、**「第４節　本体工、４．５　鋼矢板式、参考資料－１　鋼矢板打設（Ｕ形矢板、組合せ矢板）２－２　打設方式・規格、１）ハンマ規格の決定、(2)貫入抵抗値」**を適用する。		クローラ式杭打機損料削除に伴う基準の削除

ハンマ規格	規格選定境界値		摘　　要
	鋼材質量(t)	貫入抵抗値(kN)	
1.3　t	1.95	2,470	
2.5　〃	3.75	4,750	
3.5　〃	6.13	7,700	
4.5　〃	9.00	11,300	
6.0　〃	13.5	16,800	
7.2　〃	18.0	22,300	
8.0　〃	24.0	30,000	

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>4節 本体工
4.5 鋼矢板式
参考資料－２
鋼矢板打設（ﾃﾞｨｰｾﾞﾙﾊﾝﾏ）
P3-4.5-(8)</td><td>２）機械の選定
(1) 陸上打設
<table>
<tr><th rowspan="2">ハンマ形式</th><th rowspan="2">ハンマ規格
（ラム質量）</th><th rowspan="2">クローラ式杭打機
規格</th><th colspan="2">ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ（小運搬用）規格</th></tr>
<tr><th>鋼管矢板</th><th>鋼矢板</th></tr>
<tr><td rowspan="8">ディーゼル
ハンマ</td><td>1.3 t</td><td>1.3 t</td><td rowspan="8" colspan="2">50t吊</td></tr>
<tr><td>2.5 〃</td><td>2.5 〃</td></tr>
<tr><td>3.5 〃</td><td>3.5 〃</td></tr>
<tr><td>4.5 〃</td><td>4.5 〃</td></tr>
<tr><td>6.0 〃</td><td>6.0 〃</td></tr>
<tr><td>7.2 〃</td><td>7.2 〃</td></tr>
<tr><td>8.0 〃</td><td>8.0 〃</td></tr>
</table>
注）1.ディーゼルハンマ装備の杭打機については、標準規格より小さいハンマに付替えることができる。
2.クローラクレーンは、下記条件の場合、打設現場の小運搬用として必要に応じて計上する。
①打設場所から30m以内の所に杭置場を設けることができない場合。
②杭置場が施工基面（杭打機の作業面）より2m以上高い場所に設けられ、杭引込みのとき杭打機に落ちかかるおそれがある場合。
③民家、その他施設、構造物等を破損又は危険にさらすおそれがある場合。
(2) 継手溶接機械の組合せ
「第４節　本体工　４　５　鋼矢板式、２－１－４－２　鋼矢板打設（鋼管矢板）、２－１－４－２－２　打設方法・規格、２）作業船・機械の選定、(3) 継手溶接機械の組合せ」を適用する。</td><td></td><td>クローラ式杭打機損料削除に伴う基準の削除</td></tr>
<tr><td>P3-4.5-(9)</td><td>２－３　施工歩掛
１）作業能力
２）労務編成
鋼管矢板は、「第４節　本体工、４．５　鋼矢板式、２－１－４－２ 鋼矢板打設（鋼管矢板）、２－１－４－２－３　施工歩掛」を適用する。
鋼矢板（U形矢板、組合せ矢板）は、「第４節　本体工、４．５ 鋼矢板式、参考資料－１ 鋼矢板打設（U形矢板、組合せ矢板）、２－３　施工歩掛」を適用する。
３）代価表
(1) 鋼矢板・鋼管矢板打設（ﾃﾞｨｰｾﾞﾙﾊﾝﾏ）　１日（　枚・本）当り
<table>
<tr><th>名　　称</th><th>形 状 寸 法</th><th>単位</th><th>数　　量
陸上打設</th><th>摘　　要</th></tr>
<tr><td>クローラ式杭打機</td><td>t</td><td>日</td><td>1</td><td>標準運転時間</td></tr>
<tr><td>クローラクレーン</td><td>（油）　t吊</td><td>〃</td><td></td><td>標準運転時間</td></tr>
<tr><td>世　話　役</td><td></td><td>人</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>と　び　工</td><td></td><td>〃</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>普 通 作 業 員</td><td></td><td>〃</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>溶　接　工</td><td></td><td>〃</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>溶　接　機</td><td>半自動 500A</td><td>日</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>発 動 発 電 機</td><td>kVA</td><td>〃</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>雑　材　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
注）1.鋼管矢板の継杭を施工する場合は、溶接工・溶接機・発動発電機を計上する。
2.現場条件により ヤットコが必要な場合はヤットコを計上する。
3.クローラクレーンは、打設現場の小運搬用として必要に応じて計上する。</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4節 本体工
4.5 鋼矢板式
参考資料－３
受杭打設（木杭）
P3-4.5-(10)</td><td>参考資料－３　受杭打設（木杭）</td><td>参考資料－２　受杭打設（木杭）</td><td>項番号の修正</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>4節 本体工
4.6 鋼杭式
目次</td><td>参考資料
参考資料－１　鋼杭打設（Ｈ形鋼杭）　---------- 3-4.6-(1)
参考資料－２　鋼杭打設（ディーゼルハンマ）　---------- 3-4.6-(6)</td><td>参考資料
参考資料－１　鋼杭打設（Ｈ形鋼杭）　---------- 3-4.6-(1)</td><td>クローラ式杭打機損料削除に伴う基準の削除</td></tr>
<tr><td>4節 本体工
4.6 鋼杭式
P3-4.6-7</td><td>２－３－２－２　作業船・機械の組合せ
<table><tr><th rowspan="2">区　分</th><th>積　込</th><th colspan="3">運　搬</th></tr><tr><th>トラッククレーン
または
ラフテレーンクレーン</th><th>トレーラ</th><th>台　船</th><th>引　船</th></tr><tr><td>陸上運搬</td><td>（油）　ｔ吊</td><td>20ｔ積</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>海上運搬</td><td>（油）　ｔ吊</td><td>－</td><td>鋼　ｔ積</td><td>鋼D　PS型</td></tr></table>注）1.陸上運搬・海上運搬とも可能な場合は、陸上運搬とする。
2.トラッククレーンまたはラフテレーンクレーンの規格は、吊荷重と作業半径から決定する（「第２章　工事費の積算、１節　直接工事費、付属資料－１　作業能力等、１．起重機船、クレーン等の規格と性能」を参照）。
3.トレーラ（20ｔ積）の最大積載長は18mとする。なお、18mを超える積載物の場合は別途積載可能なトレーラを選定する。また、積載物の長さにより、トレーラをトラック（11ｔ積）にすることができる。
4.台船および引船の規格は、積載物の長さから下表により決定する。</td><td>２－３－２－２　作業船・機械の組合せ
<table><tr><th rowspan="2">区　分</th><th>積　込</th><th colspan="3">運　搬</th></tr><tr><th>トラッククレーン
または
ラフテレーンクレーン</th><th>トレーラ</th><th>台　船</th><th>引　船</th></tr><tr><td>陸上運搬</td><td>（油）　ｔ吊</td><td>20ｔ積級</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>海上運搬</td><td>（油）　ｔ吊</td><td>－</td><td>鋼　ｔ積</td><td>鋼D　PS型</td></tr></table>注）1.陸上運搬・海上運搬とも可能な場合は、陸上運搬とする。
2.トラッククレーンまたはラフテレーンクレーンの規格は、吊荷重と作業半径から決定する（「第２章　工事費の積算、１節　直接工事費、付属資料－１　作業能力等、１．起重機船、クレーン等の規格と性能」を参照）。
3.トレーラ（20ｔ積級）の最大積載長は18mとする。なお、18mを超える積載物の場合は別途積載可能なトレーラを選定する。また、積載物の長さにより、トレーラをトラック（11ｔ積級）にすることができる。
4.台船および引船の規格は、積載物の長さから下表により決定する。</td><td>機械器具等損料改定に伴う変更</td></tr>
<tr><td>4節 本体工
4.6 鋼杭式
P3-4.6-8</td><td>３）代価表
（1）鋼杭運搬　１日（　本）当り
<table><tr><th rowspan="2">名　称</th><th rowspan="2">形状寸法</th><th rowspan="2">単位</th><th colspan="2">数　量</th><th rowspan="2">摘　要</th></tr><tr><th>陸　上</th><th>海　上</th></tr><tr><td>台　木</td><td>杉角10×10cm</td><td>m^3</td><td>0.4</td><td>0.5</td><td>購入価格×1/5</td></tr><tr><td>トラッククレーン
または
ラフテレーンクレーン</td><td>（油）　ｔ吊</td><td>日</td><td>2</td><td></td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>トレーラ</td><td>20ｔ積</td><td>〃</td><td></td><td>－</td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>台　船</td><td>鋼　ｔ積</td><td>〃</td><td>－</td><td>1</td><td>就業8H</td></tr><tr><td>引　船</td><td>鋼D　PS型</td><td>〃</td><td>－</td><td>1</td><td>運：作業能力／就8H</td></tr><tr><td>と　び　工</td><td></td><td>人</td><td>4</td><td>3</td><td></td></tr><tr><td>普通作業員</td><td></td><td>〃</td><td>4</td><td>3</td><td></td></tr><tr><td>雑　材　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>注）1.トラッククレーンまたはラフテレーンクレーンの規格は、吊荷重と作業半径から決定する（「第２章　工事費の積算、１節　直接工事費、付属資料－１　作業能力等、１．起重機船、クレーン等の規格と性能」を参照）。
2.トレーラ（20t積）の最大積載長は18mとする。なお、18mを超える積載物の場合は別途積載可能なトレーラを選定する。また、積載物の長さにより、トレーラをトラック（11ｔ積）にすることができる。
3.台船および引船の規格は、積載物の長さから決定する。</td><td>３）代価表
（1）鋼杭運搬　１日（　本）当り
<table><tr><th rowspan="2">名　称</th><th rowspan="2">形状寸法</th><th rowspan="2">単位</th><th colspan="2">数　量</th><th rowspan="2">摘　要</th></tr><tr><th>陸　上</th><th>海　上</th></tr><tr><td>台　木</td><td>杉角10×10cm</td><td>m^3</td><td>0.4</td><td>0.5</td><td>購入価格×1/5</td></tr><tr><td>トラッククレーン
または
ラフテレーンクレーン</td><td>（油）　ｔ吊</td><td>日</td><td>2</td><td></td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>トレーラ</td><td>20ｔ積級</td><td>〃</td><td></td><td>－</td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>台　船</td><td>鋼　ｔ積</td><td>〃</td><td>－</td><td>1</td><td>就業8H</td></tr><tr><td>引　船</td><td>鋼D　PS型</td><td>〃</td><td>－</td><td>1</td><td>運：作業能力／就8H</td></tr><tr><td>と　び　工</td><td></td><td>人</td><td>4</td><td>3</td><td></td></tr><tr><td>普通作業員</td><td></td><td>〃</td><td>4</td><td>3</td><td></td></tr><tr><td>雑　材　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>注）1.トラッククレーンまたはラフテレーンクレーンの規格は、吊荷重と作業半径から決定する（「第２章　工事費の積算、１節　直接工事費、付属資料－１　作業能力等、１．起重機船、クレーン等の規格と性能」を参照）。
2.トレーラ（20t積級）の最大積載長は18mとする。なお、18mを超える積載物の場合は別途積載可能なトレーラを選定する。また、積載物の長さにより、トレーラをトラック（11ｔ積級）にすることができる。
3.台船および引船の規格は、積載物の長さから決定する。</td><td>機械器具等損料改定に伴う変更</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>4節 本体工
4.6 鋼杭式
P3-4.6-9</td><td>注）バイブロハンマによる施工歩掛は、現場条件を勘案の上、「１６節　仮設工」によることができる。
ただし、現場条件・土質条件の制約がある場合は、下表を標準に選定する。
<table>
<tr><th colspan="2">打設工法
ハンマ形式
条件区分</th><th colspan="2">打　撃　工　法</th><th colspan="2">振　動　工　法</th></tr>
<tr><th colspan="2"></th><th>ﾃﾞｨｰｾﾞﾙﾊﾝﾏ</th><th>油圧ハンマ</th><th>ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ</th><th>（ｼﾞｪｯﾄ併用）</th></tr>
<tr><td rowspan="3">現場条件</td><td>騒音への配慮が必要な場合</td><td>－</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>振動への配慮が必要な場合</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>○</td></tr>
<tr><td>油飛散等への配慮が必要な場合</td><td>－</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>土質条件</td><td>支持層へ打込むまたは中間層を打抜く場合</td><td>○</td><td>○</td><td>－</td><td>○</td></tr>
</table>
注）表中の○印は標準適用工法を示す。</td><td>注）バイブロハンマによる施工歩掛は、現場条件を勘案の上、「１６節　仮設工」によることができる。
ただし、現場条件・土質条件の制約がある場合は、下表を標準に選定する。
<table>
<tr><th colspan="2">打設工法
ハンマ形式
条件区分</th><th colspan="2">打　撃　工　法</th><th colspan="2">振　動　工　法</th></tr>
<tr><th colspan="2"></th><th></th><th>油圧ハンマ</th><th>ﾊﾞｲﾌﾞﾛﾊﾝﾏ</th><th>（ｼﾞｪｯﾄ併用）</th></tr>
<tr><td rowspan="3">現場条件</td><td>騒音への配慮が必要な場合</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>振動への配慮が必要な場合</td><td></td><td>－</td><td>－</td><td>○</td></tr>
<tr><td>油飛散等への配慮が必要な場合</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>土質条件</td><td>支持層へ打込むまたは中間層を打抜く場合</td><td></td><td>○</td><td>－</td><td>○</td></tr>
</table>
注）表中の○印は標準適用工法を示す。</td><td>クローラ式杭打機損料削除に伴う基準の削除</td></tr>
<tr><td>4節 本体工
4.6 鋼杭式
P3-4.6-13</td><td>(2) 海上打設
<table>
<tr><th rowspan="2">ハンマ形式</th><th rowspan="2">ハンマ規格
（ラム質量）</th><th colspan="3">標準的な船団構成</th><th colspan="2">現場条件による追加船団</th></tr>
<tr><th>杭 打 船</th><th>台　　船</th><th>揚 錨 船</th><th>引　　船</th><th>潜水士船</th></tr>
<tr><td rowspan="5">油圧ハンマ</td><td>4～4.5 t</td><td rowspan="2">H－ 65</td><td rowspan="5">鋼　t積</td><td rowspan="5">鋼D5t吊</td><td rowspan="5">鋼D　PS型</td><td rowspan="5">D270PS型
3～5t吊</td></tr>
<tr><td>6.5 〃</td></tr>
<tr><td>7～8 〃</td><td rowspan="2">H-125</td></tr>
<tr><td>10～12.5〃</td></tr>
<tr><td>15 〃</td><td>H-150</td></tr>
</table></td><td>(2) 海上打設
<table>
<tr><th rowspan="2">ハンマ形式</th><th rowspan="2">ハンマ規格
（ラム質量）</th><th colspan="3">標準的な船団構成</th><th colspan="2">現場条件による追加船団</th></tr>
<tr><th>杭 打 船</th><th>台　　船</th><th>揚 錨 船</th><th>引　　船</th><th>潜水士船</th></tr>
<tr><td rowspan="5">油圧ハンマ</td><td>4～4.5 t</td><td rowspan="2">H－ 65</td><td rowspan="5">鋼　t積</td><td rowspan="5">鋼D5t吊</td><td rowspan="5">鋼D　PS型</td><td rowspan="5">D320PS型
3～5t吊</td></tr>
<tr><td>6.5 〃</td></tr>
<tr><td>7～8 〃</td><td rowspan="2">H-125</td></tr>
<tr><td>10～12.5〃</td></tr>
<tr><td>15 〃</td><td>H-150</td></tr>
</table></td><td>潜水士船の大型化による基準改定</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
4節 本体工 4.6 鋼杭式 P3-4.6-16	4）代価表 （1）鋼管杭打設　　1日（　本）当り	4）代価表 （1）鋼管杭打設　　1日（　本）当り	潜水士船の大型化による基準改定

名　　称	形状寸法	単位	数　量		摘　　要
			陸上打設	海上打設	
クローラ式杭打機	t	日	1	－	標準運転時間
杭　打　船	H-	〃	－	1	運6H/就8H
台　　船	鋼　　t積	〃	－	1	就業8H
引　　船	鋼D　　PS型	〃	－		運2H/就8H
潜　水　士　船	D270PS型 3～5t吊	〃	－		就業8H
揚　錨　船	鋼D5t吊	〃	－	1	〃
クローラクレーン	(油)　　t吊	〃		－	標準運転時間
世　話　役		人			
と　び　工		〃			
普 通 作 業 員		〃			
溶　接　工		〃			
溶　接　機	半自動 500A	日			
発 動 発 電 機	kVA	〃			
雑　材　料					

名　　称	形状寸法	単位	数　量		摘　　要
			陸上打設	海上打設	
クローラ式杭打機	t	日	1	－	標準運転時間
杭　打　船	H-	〃	－	1	運6H/就8H
台　　船	鋼　　t積	〃	－	1	就業8H
引　　船	鋼D　　PS型	〃	－		運2H/就8H
潜　水　士　船	D320PS型 3～5t吊	〃	－		就業8H
揚　錨　船	鋼D5t吊	〃	－	1	〃
クローラクレーン	(油)　　t吊	〃		－	標準運転時間
世　話　役		人			
と　び　工		〃			
普 通 作 業 員		〃			
溶　接　工		〃			
溶　接　機	半自動 500A	日			
発 動 発 電 機	kVA	〃			
雑　材　料					

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
4節 本体工 4.6 鋼杭式 参考資料－１ 鋼杭打設（H形鋼杭） P3-4.6-(5)	4）代価表 （1）鋼杭打設（H形鋼杭）　1日（　本）当り	4）代価表 （1）鋼杭打設（H形鋼杭）　1日（　本）当り	潜水士船の大型化による基準改定

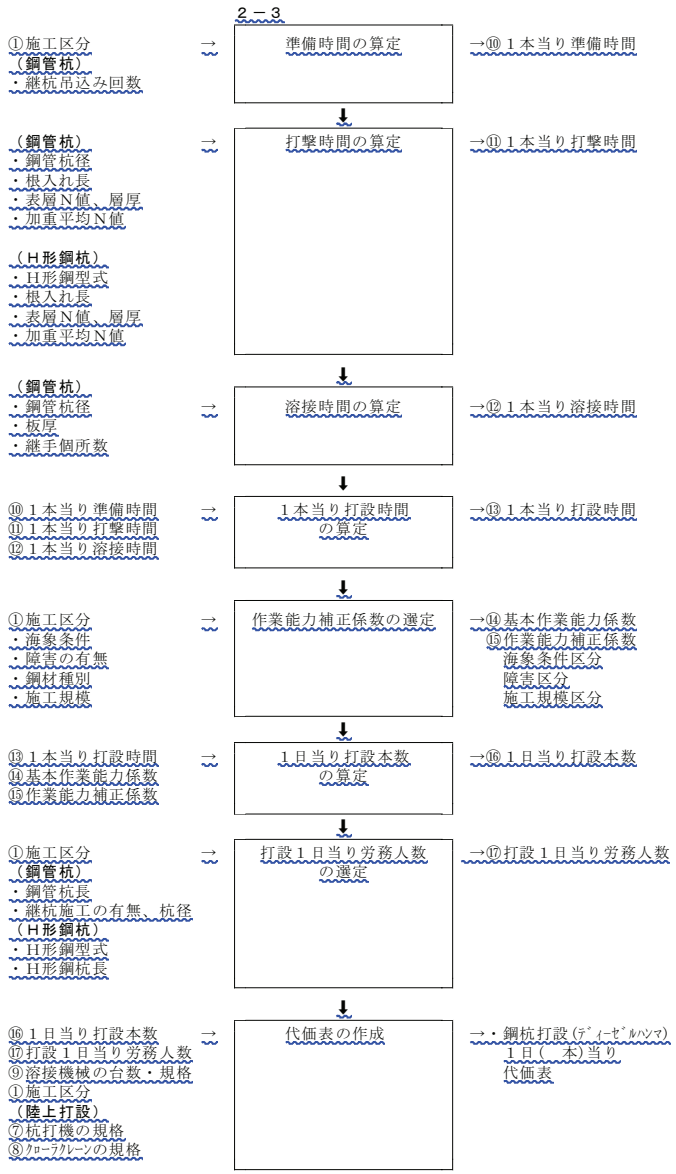
名　　称	形状寸法	単位	数　量		摘　　要
			陸上打設	海上打設	
クローラ式杭打機	t	日	1	－	標準運転時間
杭　打　船	H-	〃	－	1	運6H/就8H
台　　船	鋼　　t積	〃	－	1	就業8H
引　　船	鋼D　　PS型	〃	－		運2H/就8H
潜　水　士　船	D270PS型 3～5t吊	〃	－		就業8H
揚　錨　船	鋼D5t吊	〃	－	1	〃
クローラクレーン	(油)　　t吊	〃		－	標準運転時間
世　話　役		人			
と　び　工		〃			
普 通 作 業 員		〃			
雑　材　料					

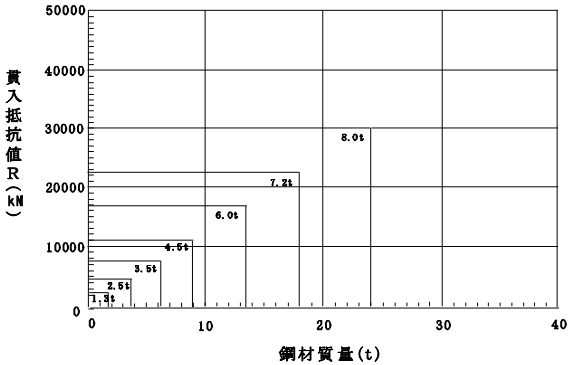
名　　称	形状寸法	単位	数　量		摘　　要
			陸上打設	海上打設	
クローラ式杭打機	t	日	1	－	標準運転時間
杭　打　船	H-	〃	－	1	運6H/就8H
台　　船	鋼　　t積	〃	－	1	就業8H
引　　船	鋼D　　PS型	〃	－		運2H/就8H
潜　水　士　船	D320PS型 3～5t吊	〃	－		就業8H
揚　錨　船	鋼D5t吊	〃	－	1	〃
クローラクレーン	(油)　　t吊	〃		－	標準運転時間
世　話　役		人			
と　び　工		〃			
普 通 作 業 員		〃			
雑　材　料					

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
4節 本体工 4.6 鋼杭式 参考資料－２ 鋼杭打設（ﾃﾞｨｰｾﾞﾙﾊﾝﾏ） P3-4.6-(6)	**参考資料－２　鋼杭打設(ディーゼルハンマ)** １．適用範囲 本項は、鋼杭打設（鋼管杭）及び鋼杭打設（Ｈ形鋼）のうちディーゼルハンマによる打設に適用する ２．鋼杭打設（ディーゼルハンマ） ２－１　代価表作成手順 [鋼杭打設の積算] ２－２ ・施工場所 → 施工区分の選定 →①施工区分（陸上打設） ↓ （鋼管杭） ・鋼管杭径、肉厚 ・鋼管杭長 （Ｈ形鋼杭） ・Ｈ形鋼型式 ・Ｈ形鋼杭長 → 鋼材諸元の選定 →（鋼管杭）④鋼材質量 （Ｈ形鋼杭）②先端閉塞換算面積 ③周辺長 ④鋼材質量 ↓ （鋼管杭） ・鋼管杭径 ・根入れ長 ・先端地盤のＮ値 ・周辺地盤の加重平均Ｎ値 （Ｈ形鋼杭） ②先端閉塞換算面積 ③周辺長 ・根入れ長 ・先端地盤のＮ値 ・周辺地盤の加重平均Ｎ値 → 貫入抵抗値の算出 →⑤貫入抵抗値 ↓ ・ハンマ形式 ④鋼材質量 ⑤貫入抵抗値 → ハンマ規格の決定 →⑥ハンマ形式・規格 ↕ ・中間層を打抜く場合 → 規格を１ﾗﾝｸ上に変更 ↓ ⑥ハンマ形式・規格 ①施工区分 （陸上打設） ・鋼材種別 → 機械の規格選定 →（陸上打設）⑦杭打機の規格 ⑧ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝの規格 ↓ （鋼管杭） ・継杭施工の有無、杭径 → 継手溶接機械の選定 →⑨溶接機械の台数・規格 ↓ ・施工場所 → 水雷・傷害保険の検討 →・必要な場合は水雷・傷害保険料を計上（共通仮設費） ↓		クローラ式杭打機損料削除に伴う基準の削除

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
4節 本体工 4.6 鋼杭式 参考資料－２ 鋼杭打設（ﾃﾞｨｰｾﾞﾙﾊﾝﾏ） P3-4.6-(6) P3-4.6-(7)			クローラ式杭打機損料削除に伴う基準の削除

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
4節 本体工 4.6 鋼杭式 参考資料－２ 鋼杭打設（ﾃﾞｨｰｾﾞﾙﾊﾝﾏ） P3-4.6-(8)	**２－２　打設方式・規格** １）ハンマ規格の決定 ディーゼルハンマの規格は、以下を標準に決定する。 (1) ハンマ規格決定図  注）図において、1.3tは陸上打設のみの適用範囲とする。 ディーゼルハンマの規格選定境界値 ハンマ規格 / 規格選定境界値 鋼材質量(t) / 規格選定境界値 貫入抵抗値(kN) / 摘　要 1.3　t / 1.95 / 2,470 2.5　〃 / 3.75 / 4,750 3.5　〃 / 6.13 / 7,700 4.5　〃 / 9.00 / 11,300 6.0　〃 / 13.5 / 16,800 7.2　〃 / 18.0 / 22,300 8.0　〃 / 24.0 / 30,000 注）1.Ｎ値30以上で層厚3m以上の中間層を打抜く場合は、１ランク上のハンマ規格を選定する。 (2) 貫入抵抗値 鋼管杭は、**「第４節　本体工、４　６　鋼杭式、２－３－３－２　鋼杭打設（鋼管杭）、２－３－３－２－２　打設方法・規格、１）ハンマ規格の決定、(2)貫入抵抗値」**を適用する。 鋼杭（H形鋼杭）は、**「第４節　本体工、４　６　鋼杭式、参考資料－１　鋼杭打設（H形鋼杭）、２－２　打設方式・規格、１）ハンマ規格の決定、(2)貫入抵抗値」**を適用する。 ２）機械の選定 (1) 陸上打設 ハンマ形式 / ハンマ規格（ラム質量） / クローラ式杭打機 規格 / ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ（小運搬用）規格 鋼管杭 / ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ（小運搬用）規格 H形鋼 ディーゼルハンマ / 1.3　t / 1.3　t / 50t吊 〃 / 2.5　〃 / 2.5　〃 〃 / 3.5　〃 / 3.5　〃 〃 / 4.5　〃 / 4.5　〃 〃 / 6.0　〃 / 6.0　〃 〃 / 7.2　〃 / 7.2　〃 〃 / 8.0　〃 / 8.0　〃 注）1.ディーゼルハンマ装備の杭打機については、標準規格より小さいハンマに付		クローラ式杭打機損料削除に伴う基準の削除

掲　載　頁	現行（令和７年度）	改定（令和８年度）	コメント
4節 本体工 4.6 鋼杭式 参考資料－２ 鋼杭打設（ﾃﾞｨｰｾﾞﾙﾊﾝﾏ） P3-4.6-(9)	替えることができる。 2.クローラクレーンは、下記条件の場合、打設現場の小運搬用とし必要に応じて計上する。 ①打設場所から30m以内の所に杭置場を設けることができない場合。 ②杭置場が施工基面（杭打機の作業面）より2m以上高い場所に設けられ、杭引込みのとき杭打機に落ちかかるおそれがある場合。 ①民家、その他施設、構造物等を破損又は危険にさらすおそれがある場合。 (2) 継手溶接機械の組合せ 「**第４節　本体工、４　６　鋼杭式、２－３－３－２　鋼杭打設（鋼管杭）、２－３－３－２－２　打設方法・規格**　２）作業船・機械の選定　(3) 継手溶接機械の組合せ」を適用する。 **２－３　施工歩掛** １）作業能力 ２）労務編成 鋼管杭は、「**第４節　本体工、４　６　鋼杭式、２－３－３－２　鋼杭打設（鋼管杭）、２－３－３－２－３　施工歩掛**」を適用する。 鋼杭（H形鋼杭）は、「**第４節　本体工、４　６　鋼杭式、参考資料－１　鋼杭打設（H形鋼）、２－３　施工歩掛**」を適用する。 ３）代価表 (1) 鋼杭打設（ﾃﾞｨｰｾﾞﾙﾊﾝﾏ）　１日（　本）当り 名称 / 形状寸法 / 単位 / 数量（陸上打設） / 摘要 クローラ式杭打機 / t / 日 / 1 / 標準運転時間 クローラクレーン / (油) t吊 / 〃 / / 標準運転時間 世話役 / / 人 / / とび工 / / 〃 / / 普通作業員 / / 〃 / / 溶接工 / / 〃 / / 溶接機 / 半自動 500A / 日 / / 発動発電機 / kVA / 〃 / / 雑材料 / / / / 注）1.鋼管杭の継杭を施工する場合は、溶接工・溶接機・発動発電機を計上する。 2.現場条件によりヤットコが必要な場合はヤットコを計上する。 3.クローラクレーンは、打設現場の小運搬用として必要に応じて計上する。		クローラ式杭打機損料削除に伴う基準の削除

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

5節 被覆・根固工 P3-5-8

現行（令和７年度）

2）代価表
（1）被覆石投入　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
被覆石	～　kg／個	m³	1,000×(1＋W/100)	割増しを含む
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1,000×(1＋W/100)/Q	就業8H
雑材料				

改定（令和８年度）

2）代価表
（1）被覆石投入　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
被覆石	～　kg／個	m³	1,000×(1＋W/100)	割増しを含む
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1,000×(1＋W/100)/Q	就業8H
雑材料				

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

5節 被覆・根固工 P3-5-11

現行（令和７年度）

2）代価表
（1）被覆均し（水中）　1日（　m²）当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
①潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1	－	就業8H
②潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	－	1	就業8H
雑材料					

改定（令和８年度）

2）代価表
（1）被覆均し（水中）　1日（　m²）当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
①潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1	－	就業8H
②潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	－	1	就業8H
雑材料					

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

5節 被覆・根固工 P3-5-12

現行（令和７年度）

2）代価表
（1）被覆均し（陸上）　100m²当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			陸上施工	海上施工	
バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値） ｸﾛｰﾗ型 山積 0.8m³ （平積 0.6m³）	日		－	標準運転時間
クレーン付台船	t吊	〃	－		運6H／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	－		運2H／就8H
石工		人			
普通作業員		〃			
雑材料					

改定（令和８年度）

2）代価表
（1）被覆均し（陸上）　100m²当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			陸上施工	海上施工	
バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値） ｸﾛｰﾗ型 0.8m³	日		－	標準運転時間
クレーン付台船	t吊	〃	－		運6H／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	－		運2H／就8H
石工		人			
普通作業員		〃			
雑材料					

コメント

機械器具等損料改定に伴う変更

6節 上部工 P3-6-11

現行（令和７年度）

2）代価表
（1）支保組立組外(重力式)　100m当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			陸上	海上	
支保組立組外	クレーン抜き	m	100		市場単価
引船	鋼D　PS型	日	－	2.0	運2H／就8H
ｸﾚｰﾝ付台船 または 起重機船	t吊 非航旋回鋼 D　t吊	〃	－	2.0	運6H／就8H

注）バケット打設による場合は、バケット打設の船団組合せによる。

改定（令和８年度）

2）代価表
（1）支保組立組外(重力式)　100m当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			陸上	海上	
支保組立組外	クレーン抜き	m	100		市場単価
引船	鋼D　PS型	日	－	2.0	運2H／就8H
ｸﾚｰﾝ付台船 または 起重機船	t吊 非航旋回鋼 D　t吊	〃	－	2.0	運6H／就8H

注）クレーン類の種類・規格は、「本節　2－3　クレーン規格の選定」による。

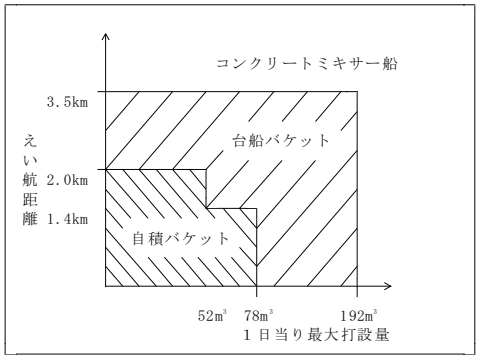
コメント

用語の統一

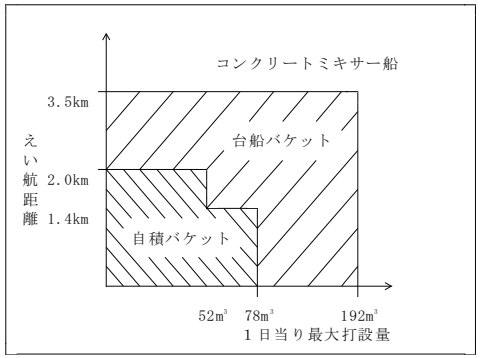
令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>6節 上部工
P3-6-25</td><td>２）施工方法の適用
各施工方法の適用範囲は以下を標準とする。

(1) 自積バケット方式
えい航距離が2.0km以下で、１日当りの最大打設量が52m³以下の場合およびえい航距離が1.4km以下で、１日当りの最大打設量が78m³以下の場合に適用する。
(2) 台船バケット方式
えい航距離が3.5km以下で、１日当りの最大打設量が192m³以下の場合において、自積バケット方式が該当しない場合に適用する。
(2) コンクリートミキサー船方式
自積バケット方式および台船バケット方式に該当しない場合に適用する。

［施工方法選定図（参考）］


注）1. １日当り最大打設量とは、打設計画より定まる一工事内での最大打設量である。
2. 現場条件により、上記により難い場合は、別途施工方法を選定できる。</td><td>２）施工方法の選定
海上コンクリート打設方法は、従前の施工実態や施工機械の調達等各施工現場での地域性や作業環境を考慮して選定することとする。従前の施工実態や作業環境が把握できない場合は、以下の施工方法(1)～(3)を参考とする。
なお、本基準に記載のない打設方法を選定する場合については、別途見積もり等により積算するものとする。
(1) 自積バケット方式
えい航距離が2.0km以下で、１日当りの最大打設量が52m³以下の場合およびえい航距離が1.4km以下で、１日当りの最大打設量が78m³以下の場合に適用する。
(2) 台船バケット方式
えい航距離が3.5km以下で、１日当りの最大打設量が192m³以下の場合において、自積バケット方式が該当しない場合に適用する。
(3) コンクリートミキサー船方式
自積バケット方式および台船バケット方式に該当しない場合に適用する。

［施工方式選定図（参考）］


注）１日当り最大打設量とは、打設計画より定まる一工事内での最大打設量である。</td><td>記載の変更</td></tr>
<tr><td>6節 上部工
P3-6-26</td><td>２）代価表
(1) コンクリート打設　10m³当り
<table><tr><th rowspan="3">名　称</th><th rowspan="3">形状寸法</th><th rowspan="3">単位</th><th colspan="6">数　量</th><th rowspan="3">摘　要</th></tr><tr><th colspan="2">ポンプ車</th><th colspan="2">陸上クレーン</th><th colspan="2">ミキサー車</th></tr><tr><th>鉄筋</th><th>無筋</th><th>鉄筋</th><th>無筋</th><th>鉄筋</th><th>無筋</th></tr><tr><td>ﾚﾃﾞｨｰﾐｸｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ</td><td></td><td>m³</td><td>10.2</td><td>10.3</td><td>10.2</td><td>10.3</td><td>10.2</td><td>10.3</td><td>割増しを含む</td></tr><tr><td rowspan="3">コンクリート打設</td><td>ポンプ車</td><td>〃</td><td>10</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">－</td><td>市場単価</td></tr><tr><td>ｸﾚｰﾝ抜き</td><td>〃</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">10</td><td colspan="2">－</td><td>〃</td></tr><tr><td>ミキサー車</td><td>〃</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">10</td><td>〃</td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン
または
クローラクレーン</td><td>（油）　t吊</td><td>日</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">0.2</td><td colspan="2">－</td><td>標準運転時間</td></tr></table>注）1. クレーンの機種・規格は、**「本節　２－３　クレーン規格の選定」**による。
2. コンクリートの通常の養生を含む。ただし、特殊養生の必要がある場合は、別途計上する。</td><td>２）代価表
(1) コンクリート打設　10m³当り
<table><tr><th rowspan="3">名　称</th><th rowspan="3">形状寸法</th><th rowspan="3">単位</th><th colspan="6">数　量</th><th rowspan="3">摘　要</th></tr><tr><th colspan="2">ポンプ車</th><th colspan="2">陸上クレーン</th><th colspan="2">ミキサー車</th></tr><tr><th>鉄筋</th><th>無筋</th><th>鉄筋</th><th>無筋</th><th>鉄筋</th><th>無筋</th></tr><tr><td>ﾚﾃﾞｨｰﾐｸｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ</td><td></td><td>m³</td><td>10.2</td><td>10.3</td><td>10.2</td><td>10.3</td><td>10.2</td><td>10.3</td><td>割増しを含む</td></tr><tr><td rowspan="3">コンクリート打設</td><td>ポンプ車</td><td>〃</td><td>10</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">－</td><td>市場単価</td></tr><tr><td>ｸﾚｰﾝ抜き</td><td>〃</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">10</td><td colspan="2">－</td><td>〃</td></tr><tr><td>ミキサー車</td><td>〃</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">10</td><td>〃</td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン
または
クローラクレーン</td><td>（油）　t吊</td><td>日</td><td colspan="2">－</td><td colspan="2">0.2</td><td colspan="2">－</td><td>標準運転時間</td></tr></table>注）1. クレーンの種類・規格は、**「本節　２－３　クレーン規格の選定」**による。
2. コンクリートの通常の養生を含む。ただし、特殊養生の必要がある場合は、別途計上する。</td><td>用語の統一</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

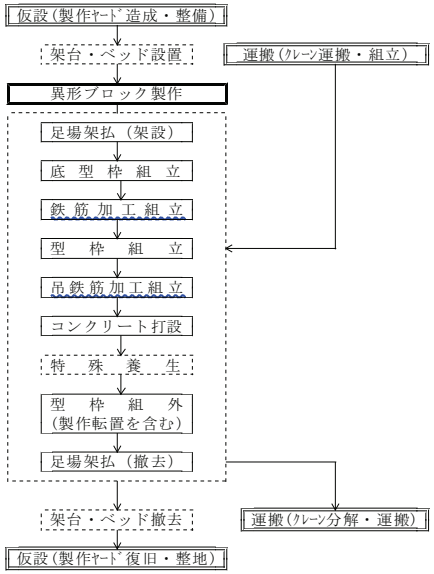
<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>6節 上部工
P3-6-27</td><td>
２）代価表
（1）コンクリート運搬　100m³当り
<table>
<tr><th>名　　称</th><th>形 状 寸 法</th><th>単位</th><th>数　量</th><th>摘　　要</th></tr>
<tr><td>クレーン付台船
または
起　重　機　船</td><td>t吊
非航旋回脚D　t吊</td><td>日</td><td>104/Q</td><td>運：4H／就8H</td></tr>
<tr><td>引　　船</td><td>鋼D　PS型</td><td>〃</td><td>104/Q</td><td>運：作業能力／就8H</td></tr>
<tr><td>ｺﾝｸﾘｰﾄﾊﾞｹｯﾄ</td><td>5.0m³</td><td>〃</td><td>104/Q×6</td><td></td></tr>
<tr><td>雑　　材　　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
注）1.起重機船の船種・規格および引船規格は、「本節　２－３　クレーン規格の選定」による。
2.Q：１日当り運搬量（扱い数量、m³/日）
3.数量は、小数3位四捨五入とする。
</td><td>
２）代価表
（1）コンクリート運搬　100m³当り
<table>
<tr><th>名　　称</th><th>形 状 寸 法</th><th>単位</th><th>数　量</th><th>摘　　要</th></tr>
<tr><td>クレーン付台船
または
起　重　機　船</td><td>t吊
非航旋回脚D　t吊</td><td>日</td><td>104/Q</td><td>運：4H／就8H</td></tr>
<tr><td>引　　船</td><td>鋼D　PS型</td><td>〃</td><td>104/Q</td><td>運：作業能力／就8H</td></tr>
<tr><td>ｺﾝｸﾘｰﾄﾊﾞｹｯﾄ</td><td>5.0m³</td><td>〃</td><td>104/Q×6</td><td></td></tr>
<tr><td>雑　　材　　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
注）1.クレーン類の種類・規格および引船規格は、「本節　２－３　クレーン規格の選定」による。
2.Q：１日当り運搬量（扱い数量、m³/日）
3.数量は、小数3位四捨五入とする。
</td><td>用語の統一</td></tr>
<tr><td>6節 上部工
P3-6-29</td><td>
３）代価表
（1）コンクリート運搬　100m³当り
<table>
<tr><th>名　　称</th><th>形 状 寸 法</th><th>単位</th><th>数　量</th><th>摘　　要</th></tr>
<tr><td>クレーン付台船
または
起　重　機　船</td><td>t吊
非航旋回脚D　t吊</td><td>日</td><td>104/Q</td><td>運：作業能力／就8H</td></tr>
<tr><td>台　　船</td><td>鋼　t積</td><td>〃</td><td>104/Q×N</td><td>就業8H</td></tr>
<tr><td>引　　船</td><td>鋼D　PS型</td><td>〃</td><td>104/Q×N</td><td>運：作業能力／就8H</td></tr>
<tr><td>ラフテレーンクレーン
または
クローラクレーン</td><td>（油）　t吊</td><td>〃</td><td>(52/Q)</td><td>標準運転時間</td></tr>
<tr><td>ｺﾝｸﾘｰﾄﾊﾞｹｯﾄ</td><td>m³</td><td>〃</td><td>104/Q×N</td><td></td></tr>
<tr><td>雑　　材　　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
注）1.起重機船の船種・規格および引船規格は、「本節　２－３　クレーン規格の選定」による。
2.Q：１日当り運搬量（扱い数量、m³/日）
3.N：１日当り必要隻数または必要数量（隻/日または個/日）
4.数量は、小数3位四捨五入とする。
5.積出場所において、コンクリートバケットを台船に積込む必要がある場合は、陸上クレーンを計上する。なお、クレーンの機種・規格は、「本節　２－３　クレーン規格の選定」による。
</td><td>
３）代価表
（1）コンクリート運搬　100m³当り
<table>
<tr><th>名　　称</th><th>形 状 寸 法</th><th>単位</th><th>数　量</th><th>摘　　要</th></tr>
<tr><td>クレーン付台船
または
起　重　機　船</td><td>t吊
非航旋回脚D　t吊</td><td>日</td><td>104/Q</td><td>運：作業能力／就8H</td></tr>
<tr><td>台　　船</td><td>鋼　t積</td><td>〃</td><td>104/Q×N</td><td>就業8H</td></tr>
<tr><td>引　　船</td><td>鋼D　PS型</td><td>〃</td><td>104/Q×N</td><td>運：作業能力／就8H</td></tr>
<tr><td>ラフテレーンクレーン
または
クローラクレーン</td><td>（油）　t吊</td><td>〃</td><td>(52/Q)</td><td>標準運転時間</td></tr>
<tr><td>ｺﾝｸﾘｰﾄﾊﾞｹｯﾄ</td><td>m³</td><td>〃</td><td>104/Q×N</td><td></td></tr>
<tr><td>雑　　材　　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
注）1.クレーン類の種類・規格および引船規格は、「本節　２－３　クレーン規格の選定」による。
2.Q：１日当り運搬量（扱い数量、m³/日）
3.N：１日当り必要隻数または必要数量（隻/日または個/日）
4.数量は、小数3位四捨五入とする。
5.積出場所において、コンクリートバケットを台船に積込む必要がある場合は、陸上クレーンを計上する。なお、クレーンの種類・規格は、「本節　２－３　クレーン規格の選定」による。
</td><td>用語の統一</td></tr>
<tr><td>6節 上部工
P3-6-32</td><td>
２）コンクリートミキサー船拘束費
（1）工程待ちによる拘束
施工施設の種類に拘わらず、当該工事における延べ混合日数（N）に対して、現場における稼働実態を考慮して、コンクリートミキサー船の工程待ちによる拘束日数として下式により算出した日数を 0.5日単位で計上する。

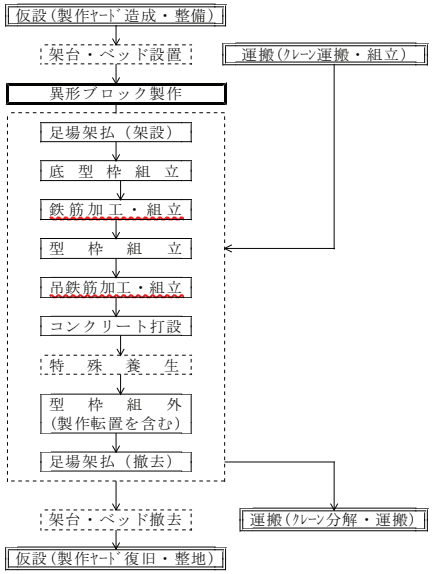
D　＝　N　×　K　　（小数１位を二捨三入または七捨八入）
D：工程待ち拘束日数(日)
N：延べ混合日数(日)　　（延べ混合日数は20日を上限とする）
N　＝　ΣQ／Qₒ　　（小数１位切上げ）
ΣQ：総混合量(m³)
Qₒ：１日当り平均混合量(割増し含む)(m³／日)　（小数１位四捨五入）
K：拘束発生率（0.30）
</td><td>
２）コンクリートミキサー船拘束費
（1）コンクリートミキサー船拘束
工事の施工に際し、コンクリートミキサー船の拘束が発生する場合は、拘束費を計上する。拘束費の計上は、「第２章　工事費の積算　２－７拘束費」により計上する。
</td><td>記載の変更</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>6節 上部工
P3-6-33</td><td>(3) 材料接岸積込　1,000m³(コンクリート数量)当り
<table><tr><th>名　称</th><th>形 状 寸 法</th><th>単位</th><th>数 量</th><th>摘　要</th></tr><tr><td>クラムシェル</td><td>平 積 1.0m³</td><td>日</td><td>D</td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>ホイールローダ</td><td>3.1～3.3m³</td><td>〃</td><td>D</td><td>〃</td></tr><tr><td>普通作業員</td><td></td><td>人</td><td>D</td><td></td></tr><tr><td>コンクリートミキサー船</td><td>ﾊﾞｯﾁ式　m³
または
ｺﾝﾃｨﾆｱｽ式　型</td><td>日</td><td>D</td><td>供用</td></tr><tr><td>雑　材　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>注）D：コンクリート1,000m³当り骨材積込作業日数(日)</td><td>(3) 材料接岸積込　1,000m³(コンクリート数量)当り
<table><tr><th>名　称</th><th>形 状 寸 法</th><th>単位</th><th>数 量</th><th>摘　要</th></tr><tr><td>クラムシェル</td><td>平 積 1.0m³</td><td>日</td><td>D</td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>ホイールローダ</td><td>3.2～3.4m³</td><td>〃</td><td>D</td><td>〃</td></tr><tr><td>普通作業員</td><td></td><td>人</td><td>D</td><td></td></tr><tr><td>コンクリートミキサー船</td><td>ﾊﾞｯﾁ式　m³
または
ｺﾝﾃｨﾆｱｽ式　型</td><td>日</td><td>D</td><td>供用</td></tr><tr><td>雑　材　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>注）D：コンクリート1,000m³当り骨材積込作業日数(日)</td><td>規格の見直し</td></tr>
<tr><td>6節 上部工
参考資料－１
コンクリートミキサー船による大規模施工歩掛
P3-6-(1)</td><td>4）拘束費
(1)工程待ちによる拘束
「本節　２－１２－５－４　施工歩掛、２）、(1)工程待ちによる拘束」の混合日数を混合回数に読み替えて適用する。</td><td>4）拘束費
(1)コンクリートミキサー船拘束
「本節　２－１２－５－４　施工歩掛、２）、(1)コンクリートミキサー船拘束」を適用する。</td><td>記載の変更</td></tr>
<tr><td>7節 付属工
P3-7-16</td><td>(3) 陽極取付　１日（　個）当り
<table><tr><th rowspan="2">名　称</th><th rowspan="2">形 状 寸 法</th><th rowspan="2">単位</th><th colspan="2">数　量</th><th rowspan="2">摘　要</th></tr><tr><th>既設構造物等を基地として作業できる場合</th><th>既設構造物等を基地として作業できない場合</th></tr><tr><td>アルミニウム合金陽極</td><td>取付プレートを含む</td><td>個</td><td>18</td><td>14</td><td></td></tr><tr><td>陽極取付</td><td>クレーン込み</td><td>〃</td><td>18</td><td>－</td><td>市場単価</td></tr><tr><td>潜水士船</td><td>D270PS型 3～5ｔ吊</td><td>日</td><td>－</td><td>1</td><td>就業8H</td></tr><tr><td>クレーン付台船</td><td>35～40ｔ吊</td><td>〃</td><td>－</td><td>0.4</td><td>運2H/就8H</td></tr><tr><td>引船</td><td>鋼D300PS型</td><td>〃</td><td>－</td><td>0.4</td><td>運2H/就8H</td></tr><tr><td>溶接機</td><td>D300A</td><td>〃</td><td>－</td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>世話役</td><td></td><td>人</td><td>－</td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>普通作業員</td><td></td><td>〃</td><td>－</td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>消耗品</td><td></td><td>%</td><td>－</td><td>2</td><td>労務費の%</td></tr><tr><td>雑材料</td><td></td><td></td><td>－</td><td></td><td></td></tr></table></td><td>(3) 陽極取付　１日（　個）当り
<table><tr><th rowspan="2">名　称</th><th rowspan="2">形 状 寸 法</th><th rowspan="2">単位</th><th colspan="2">数　量</th><th rowspan="2">摘　要</th></tr><tr><th>既設構造物等を基地として作業できる場合</th><th>既設構造物等を基地として作業できない場合</th></tr><tr><td>アルミニウム合金陽極</td><td>取付プレートを含む</td><td>個</td><td>18</td><td>14</td><td></td></tr><tr><td>陽極取付</td><td>クレーン込み</td><td>〃</td><td>18</td><td>－</td><td>市場単価</td></tr><tr><td>潜水士船</td><td>D320PS型 3～5ｔ吊</td><td>日</td><td>－</td><td>1</td><td>就業8H</td></tr><tr><td>クレーン付台船</td><td>35～40ｔ吊</td><td>〃</td><td>－</td><td>0.4</td><td>運2H/就8H</td></tr><tr><td>引船</td><td>鋼D300PS型</td><td>〃</td><td>－</td><td>0.4</td><td>運2H/就8H</td></tr><tr><td>溶接機</td><td>D300A</td><td>〃</td><td>－</td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>世話役</td><td></td><td>人</td><td>－</td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>普通作業員</td><td></td><td>〃</td><td>－</td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>消耗品</td><td></td><td>%</td><td>－</td><td>2</td><td>労務費の%</td></tr><tr><td>雑材料</td><td></td><td></td><td>－</td><td></td><td></td></tr></table></td><td>潜水士船の大型化による基準改定</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>8節 消波工
P3-8-2</td><td>
消波ブロック製作内訳
<table>
<tr><th>種別(レベル3)</th><th>細　別(レベル4)</th><th colspan="2">内　容</th><th>単位</th><th>数　位</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td rowspan="5">消波ブロック工</td><td rowspan="5">消波ブロック製作
(10個当り)</td><td>コンクリート</td><td>コンクリート量</td><td>m³</td><td rowspan="5">小数３位
四捨五入</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>型　枠</td><td>型枠面積</td><td>m²</td></tr>
<tr><td rowspan="2">鉄筋加工組立</td><td>丸鋼質量</td><td>kg</td></tr>
<tr><td>異形棒鋼質量</td><td>〃</td></tr>
<tr><td>吊鉄筋加工組立</td><td>丸鋼質量</td><td>〃</td></tr>
</table>
１－５－２　材料割増率
<table>
<tr><th>種別(レベル3)</th><th>細　別(レベル4)</th><th colspan="2">内　容</th><th>割増率(%)</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td rowspan="4">消波ブロック工</td><td rowspan="4">消波ブロック製作</td><td>コンクリート</td><td>コンクリート</td><td>1</td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">鉄筋加工組立</td><td>丸鋼</td><td>3</td></tr>
<tr><td>異形棒鋼</td><td>2</td></tr>
<tr><td>吊鉄筋加工組立</td><td>丸鋼</td><td>3</td></tr>
</table>
</td><td>
消波ブロック製作内訳
<table>
<tr><th>種別(レベル3)</th><th>細　別(レベル4)</th><th colspan="2">内　容</th><th>単位</th><th>数　位</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td rowspan="5">消波ブロック工</td><td rowspan="5">消波ブロック製作
(10個当り)</td><td>コンクリート</td><td>コンクリート量</td><td>m³</td><td rowspan="5">小数３位
四捨五入</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>型　枠</td><td>型枠面積</td><td>m²</td></tr>
<tr><td rowspan="2">鉄筋加工・組立</td><td>丸鋼質量</td><td>kg</td></tr>
<tr><td>異形棒鋼質量</td><td>〃</td></tr>
<tr><td>吊鉄筋加工・組立</td><td>丸鋼質量</td><td>〃</td></tr>
</table>
１－５－２　材料割増率
<table>
<tr><th>種別(レベル3)</th><th>細　別(レベル4)</th><th colspan="2">内　容</th><th>割増率(%)</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td rowspan="4">消波ブロック工</td><td rowspan="4">消波ブロック製作</td><td>コンクリート</td><td>コンクリート</td><td>1</td><td rowspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">鉄筋加工・組立</td><td>丸鋼</td><td>3</td></tr>
<tr><td>異形棒鋼</td><td>3</td></tr>
<tr><td>吊鉄筋加工・組立</td><td>丸鋼</td><td>3</td></tr>
</table>
</td><td>市場単価「土木工事・鉄筋工（一般構造物）」削除に伴う変更</td></tr>
<tr><td>8節 消波工
P3-8-3</td><td>
２－１－２　施工フロー


</td><td>
２－１－２　施工フロー


</td><td>市場単価「土木工事・鉄筋工（一般構造物）」削除に伴う変更</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>8節 消波工
P3-8-4</td><td>（鉄筋及び吊鉄筋が必要な場合）
・鉄筋径
・施工場所
⇒ 市場単価適用の検討 →⑧鉄筋市場単価
⑨吊鉄筋市場単価
・市場単価適用条件以外は別途積算
⑥10個当り型枠歩掛
⑦10個当りｺﾝｸﾘｰﾄ打設歩掛
⑧鉄筋の有無
⑨吊鉄筋の有無
→ 製作歩掛の計算 →⑩10個当り製作歩掛
⑩10個当り製作歩掛
⑧鉄筋市場単価
⑨吊鉄筋市場単価
④型枠工市場単価
⑤ｺﾝｸﾘｰﾄ打設工市場単価
②製作ｸﾚｰﾝ機種・規格
③製作転置クレーン機種・規格
→ 代価表の作成 →・異形ブロック製作10個当り代価表</td><td>（鉄筋及び吊鉄筋が必要な場合）
⑥10個当り型枠歩掛
⑦10個当りｺﾝｸﾘｰﾄ打設歩掛
⑧鉄筋の有無
⑨吊鉄筋の有無
→ 製作歩掛の計算 →⑩10個当り製作歩掛
⑩10個当り製作歩掛
⑧鉄筋加工・組立歩掛
⑨吊鉄筋加工・組立歩掛
④型枠工市場単価
⑤ｺﾝｸﾘｰﾄ打設工市場単価
②製作ｸﾚｰﾝ機種・規格
③製作転置クレーン機種・規格
→ 代価表の作成 →・異形ブロック製作10個当り代価表</td><td>市場単価「土木工事・鉄筋工（一般構造物）」削除に伴う変更</td></tr>
<tr><td>8節 消波工
P3-8-5</td><td>４）鉄筋および吊鉄筋加工組立
市場単価「土木工事・鉄筋工（一般構造物）」を適用する。
なお、市場単価には鉄筋荷卸し費用、およびクレーンを必要とする場合の賃料が含まれる。
市場単価の算定については、「第４章　市場単価等」による。</td><td>４）鉄筋および吊鉄筋加工・組立
「土木工事標準積算基準書　第Ⅱ編　鉄筋工」の一般構造物を適用する。
なお、鉄筋加工・組立については単位をｔからｋｇへ変換して採用していることから、小数３位切捨てとする。</td><td>市場単価「土木工事・鉄筋工（一般構造物）」削除に伴う変更</td></tr>
<tr><td>8節 消波工
P3-8-6</td><td>６）代価表
（1）異形ブロック製作　10個当り
<table>
<tr><th>名　称</th><th>形状寸法</th><th>単位</th><th>数　量</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td>レディーミクストコンクリート</td><td></td><td>m³</td><td>V×(1+W/100)×10</td><td>割増しを含む</td></tr>
<tr><td>型枠賃料</td><td></td><td>m²</td><td>A×10</td><td></td></tr>
<tr><td>鉄筋</td><td></td><td>kg</td><td>Rᵢ×(1+W/100)×10</td><td>割増しを含む</td></tr>
<tr><td>吊鉄筋</td><td></td><td>kg</td><td>Rⱼ×(1+W/100)×10</td><td>割増しを含む</td></tr>
<tr><td>鉄筋加工組立</td><td>一般構造物</td><td>kg</td><td>Σ Rᵢ×10</td><td>市場単価(土木工事・鉄筋工)</td></tr>
<tr><td>吊鉄筋加工組立</td><td>一般構造物</td><td>kg</td><td>Σ Rⱼ×10</td><td>市場単価(土木工事・鉄筋工)</td></tr>
<tr><td>型枠工</td><td></td><td>m²</td><td>A×10</td><td>市場単価</td></tr>
<tr><td>コンクリート打設工</td><td></td><td>m³</td><td>V×10</td><td>市場単価</td></tr>
<tr><td>給熱養生加算額</td><td></td><td>m³</td><td>V×10</td><td>市場単価</td></tr>
<tr><td>ラフテレーンクレーン（型枠工用）</td><td>排出ｶﾞｽ対策型（油）ｔ吊</td><td>日</td><td>A×10×a/100</td><td>標準運転時間</td></tr>
<tr><td>ラフテレーンクレーン（ｺﾝｸﾘｰﾄ工用、製作転置用）</td><td>排出ｶﾞｽ対策型（油）ｔ吊</td><td>日</td><td>A×10×a/100
＋V×10×b/100</td><td>標準運転時間</td></tr>
<tr><td>クローラクレーン（ｺﾝｸﾘｰﾄ工用、製作転置用）</td><td>（油）ｔ吊</td><td>日</td><td>A×10×a/100
＋V×10×b/100</td><td>標準運転時間</td></tr>
</table></td><td>６）代価表
（1）異形ブロック製作　10個当り
<table>
<tr><th>名　称</th><th>形状寸法</th><th>単位</th><th>数　量</th><th>摘　要</th></tr>
<tr><td>レディーミクストコンクリート</td><td></td><td>m³</td><td>V×(1+W/100)×10</td><td>割増しを含む</td></tr>
<tr><td>型枠賃料</td><td></td><td>m²</td><td>A×10</td><td></td></tr>
<tr><td>鉄筋加工</td><td>一般構造物</td><td>kg</td><td>Σ Rᵢ×10</td><td></td></tr>
<tr><td>鉄筋組立</td><td>一般構造物</td><td>kg</td><td>Σ Rᵢ×10</td><td></td></tr>
<tr><td>吊鉄筋加工</td><td>一般構造物</td><td>kg</td><td>Σ Rⱼ×10</td><td></td></tr>
<tr><td>吊鉄筋組立</td><td>一般構造物</td><td>kg</td><td>Σ Rⱼ×10</td><td></td></tr>
<tr><td>型枠工</td><td></td><td>m²</td><td>A×10</td><td>市場単価</td></tr>
<tr><td>コンクリート打設工</td><td></td><td>m³</td><td>V×10</td><td>市場単価</td></tr>
<tr><td>給熱養生加算額</td><td></td><td>m³</td><td>V×10</td><td>市場単価</td></tr>
<tr><td>ラフテレーンクレーン（型枠工用）</td><td>排出ｶﾞｽ対策型（油）ｔ吊</td><td>日</td><td>A×10×a/100</td><td>標準運転時間</td></tr>
<tr><td>ラフテレーンクレーン（ｺﾝｸﾘｰﾄ工用、製作転置用）</td><td>排出ｶﾞｽ対策型（油）ｔ吊</td><td>日</td><td>A×10×a/100
＋V×10×b/100</td><td>標準運転時間</td></tr>
<tr><td>クローラクレーン（ｺﾝｸﾘｰﾄ工用、製作転置用）</td><td>（油）ｔ吊</td><td>日</td><td>A×10×a/100
＋V×10×b/100</td><td>標準運転時間</td></tr>
</table></td><td>市場単価「土木工事・鉄筋工（一般構造物）」削除に伴う変更</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲載頁：8節 消波工 P3-8-10

現行（令和７年度）

２－２－４　作業船・機械の組合せ
２－２－４－１　陸上作業

ブロック質量	転置、運搬、据付（陸上連携方式、陸海一貫方式）、横持ち		
	ラフテレーンクレーン	クローラクレーン	ﾄﾗｯｸまたはﾄﾚｰﾗ
4.5t以下	（油）　25　t吊	―	11積
4.5t超え7.5t〃	（〃）　35　〃		11〃
7.5t〃12.5t〃	（〃）　50　〃		25〃
12.5t〃22.0t〃	（〃）　50　〃		25〃
22.0t〃31.0t〃	―	（油）　100　t吊	32〃
31.0t〃37.5t〃		（〃）　150　〃	40〃
37.5t〃50.0t〃			50〃
50.0t〃70.0t〃		（〃）　200　〃	60または70〃
70.0t〃100.0t〃			現場条件による

改定（令和８年度）

２－２－４　作業船・機械の組合せ
２－２－４－１　陸上作業

ブロック質量	転置、運搬、据付（陸上連携方式、陸海一貫方式）、横持ち		
	ラフテレーンクレーン	クローラクレーン	ﾄﾗｯｸまたはﾄﾚｰﾗ
4.5t以下	（油）　25　t吊	―	11t積級
4.5t超え7.5t〃	（〃）　35　〃		11　〃
7.5t〃12.5t〃	（〃）　50　〃		25　〃
12.5t〃22.0t〃	（〃）　50　〃		25　〃
22.0t〃31.0t〃	―	（油）　100　t吊	32　〃
31.0t〃37.5t〃		（〃）　150　〃	40　〃
37.5t〃50.0t〃			50　〃
50.0t〃70.0t〃		（〃）　200　〃	60または70〃
70.0t〃100.0t〃			現場条件による

コメント

機械器具等損料改定に伴う変更

掲載頁：8節 消波工 P3-8-12

現行（令和７年度）

3）代価表
(1) ブロック転置　1日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量 陸上	数量 海上	摘要
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	（油）　t吊	日	1	―	標準運転時間
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回 翼D　t吊	〃	―	1	運6H／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	―	1	運2H／就8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃			就業8H
とび工		人			
普通作業員		〃			
雑材料					

改定（令和８年度）

3）代価表
(1) ブロック転置　1日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量 陸上	数量 海上	摘要
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	（油）　t吊	日	1	―	標準運転時間
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回 翼D　t吊	〃	―	1	運6H／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	―	1	運2H／就8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃			就業8H
とび工		人			
普通作業員		〃			
雑材料					

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

掲載頁：8節 消波工 P3-8-13

現行（令和７年度）

3）代価表
(1) ブロック据付（１スイング）　1日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量 陸上	数量 海上	摘要
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	（油）　t吊	日	1	―	標準運転時間
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回 翼D　t吊	〃	―	1	運6H／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	―	1	運2H／就8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	〃			就業8H
とび工		人			
普通作業員		〃			
雑材料					

改定（令和８年度）

3）代価表
(1) ブロック据付（１スイング）　1日（　　個）当り

名称	形状寸法	単位	数量 陸上	数量 海上	摘要
ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	（油）　t吊	日	1	―	標準運転時間
クレーン付台船または起重機船	t吊 非航旋回 翼D　t吊	〃	―	1	運6H／就8H
引船	鋼D　PS型	〃	―	1	運2H／就8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	〃			就業8H
とび工		人			
普通作業員		〃			
雑材料					

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

<table>
<tr><th>掲　載　頁</th><th>現行（令和７年度）</th><th>改定（令和８年度）</th><th>コメント</th></tr>
<tr><td>8節 消波工
P3-8-16</td><td>３）代価表
(1) ブロック運搬据付・仮置(陸上連携方式)　１日（　　個）当り
<table><tr><th>名　　称</th><th>形　状　寸　法</th><th>単位</th><th>数量</th><th>摘　　要</th></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン
または
クローラクレーン</td><td>(油)　　t吊</td><td>日</td><td>1</td><td>据付・仮置用
標準運転時間</td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン
または
クローラクレーン</td><td>(油)　　t吊</td><td>〃</td><td>1</td><td>積込用
標準運転時間</td></tr><tr><td>トレーラ
または
トラック</td><td>t積</td><td>〃</td><td></td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>潜　水　士　船</td><td>D270PS型
3～5t吊</td><td>〃</td><td></td><td>就業8H</td></tr><tr><td>と　び　工</td><td></td><td>人</td><td></td><td></td></tr><tr><td>普　通　作　業　員</td><td></td><td>〃</td><td></td><td></td></tr><tr><td>雑　　材　　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td><td>３）代価表
(1) ブロック運搬据付・仮置(陸上連携方式)　１日（　　個）当り
<table><tr><th>名　　称</th><th>形　状　寸　法</th><th>単位</th><th>数量</th><th>摘　　要</th></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン
または
クローラクレーン</td><td>(油)　　t吊</td><td>日</td><td>1</td><td>据付・仮置用
標準運転時間</td></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン
または
クローラクレーン</td><td>(油)　　t吊</td><td>〃</td><td>1</td><td>積込用
標準運転時間</td></tr><tr><td>トレーラ
または
トラック</td><td>t積級</td><td>〃</td><td></td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>潜　水　士　船</td><td>D320PS型
3～5t吊</td><td>〃</td><td></td><td>就業8H</td></tr><tr><td>と　び　工</td><td></td><td>人</td><td></td><td></td></tr><tr><td>普　通　作　業　員</td><td></td><td>〃</td><td></td><td></td></tr><tr><td>雑　　材　　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td><td>機械器具等損料改定に伴う変更

潜水士船の大型化による基準改定</td></tr>
<tr><td>8節 消波工
P3-8-19</td><td>３）代価表
(1) ブロック運搬据付・仮置(海上一連方式)　１日（　　個）当り
<table><tr><th>名　　称</th><th>形　状　寸　法</th><th>単位</th><th>数　　量</th><th>摘　　要</th></tr><tr><td>クレーン付台船
または
起　重　機　船</td><td>t吊
非航旋回　脚D　t吊</td><td>日</td><td>1</td><td>運:作業能力／就8H</td></tr><tr><td>引　　船</td><td>鋼D　　PS型</td><td>〃</td><td>1</td><td>〃</td></tr><tr><td>潜　水　士　船</td><td>D270PS型
3～5t吊</td><td>〃</td><td></td><td>就業8H</td></tr><tr><td>と　び　工</td><td></td><td>人</td><td></td><td></td></tr><tr><td>普　通　作　業　員</td><td></td><td>〃</td><td></td><td></td></tr><tr><td>雑　　材　　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td><td>３）代価表
(1) ブロック運搬据付・仮置(海上一連方式)　１日（　　個）当り
<table><tr><th>名　　称</th><th>形　状　寸　法</th><th>単位</th><th>数　　量</th><th>摘　　要</th></tr><tr><td>クレーン付台船
または
起　重　機　船</td><td>t吊
非航旋回　脚D　t吊</td><td>日</td><td>1</td><td>運:作業能力／就8H</td></tr><tr><td>引　　船</td><td>鋼D　　PS型</td><td>〃</td><td>1</td><td>〃</td></tr><tr><td>潜　水　士　船</td><td>D320PS型
3～5t吊</td><td>〃</td><td></td><td>就業8H</td></tr><tr><td>と　び　工</td><td></td><td>人</td><td></td><td></td></tr><tr><td>普　通　作　業　員</td><td></td><td>〃</td><td></td><td></td></tr><tr><td>雑　　材　　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td><td>潜水士船の大型化による基準改定</td></tr>
<tr><td>8節 消波工
P3-8-22</td><td>３）代価表
(1) ブロック運搬据付・仮置(陸海一貫方式)　１日（　　個）当り
<table><tr><th>名　　称</th><th>形　状　寸　法</th><th>単位</th><th>数　　量</th><th>摘　　要</th></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン
または
クローラクレーン</td><td>(油)　　t吊</td><td>日</td><td>1</td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>トラック
または
トレーラ</td><td>t積</td><td>〃</td><td></td><td>〃</td></tr><tr><td>クレーン付台船
または
起　重　機　船</td><td>t吊
非航旋回　脚D　t吊</td><td>〃</td><td>1</td><td>運:作業能力／就8H</td></tr><tr><td>引　　船</td><td>鋼D　　PS型</td><td>〃</td><td>1</td><td>〃</td></tr><tr><td>潜　水　士　船</td><td>D270PS型　3～5t吊</td><td>〃</td><td></td><td>就業8H</td></tr><tr><td>と　び　工</td><td></td><td>人</td><td></td><td></td></tr><tr><td>普　通　作　業　員</td><td></td><td>〃</td><td></td><td></td></tr><tr><td>雑　　材　　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td><td>３）代価表
(1) ブロック運搬据付・仮置(陸海一貫方式)　１日（　　個）当り
<table><tr><th>名　　称</th><th>形　状　寸　法</th><th>単位</th><th>数　　量</th><th>摘　　要</th></tr><tr><td>ラフテレーンクレーン
または
クローラクレーン</td><td>(油)　　t吊</td><td>日</td><td>1</td><td>標準運転時間</td></tr><tr><td>トラック
または
トレーラ</td><td>t積級</td><td>〃</td><td></td><td>〃</td></tr><tr><td>クレーン付台船
または
起　重　機　船</td><td>t吊
非航旋回　脚D　t吊</td><td>〃</td><td>1</td><td>運:作業能力／就8H</td></tr><tr><td>引　　船</td><td>鋼D　　PS型</td><td>〃</td><td>1</td><td>〃</td></tr><tr><td>潜　水　士　船</td><td>D320PS型　3～5t吊</td><td>〃</td><td></td><td>就業8H</td></tr><tr><td>と　び　工</td><td></td><td>人</td><td></td><td></td></tr><tr><td>普　通　作　業　員</td><td></td><td>〃</td><td></td><td></td></tr><tr><td>雑　　材　　料</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table></td><td>機械器具等損料改定に伴う変更

潜水士船の大型化による基準改定</td></tr>
</table>

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

掲載頁：9節 裏込・裏埋工 P3-9-10

現行（令和７年度）

3）作業船組合せ

施工区分	作業内容	名称	規格	摘要
直接投入	投入指示	潜水士船	D270PS型 3～5ｔ吊	
積込・運搬	積込	クローラローダ	1.8～1.9m³	
	集積	ブルドーザ	15ｔ級	
	運搬	ダンプトラック	10ｔ積級	
海上運搬投入	積込運搬投入	ガット船	ｸﾞﾗﾌﾞ容量 1.8m³ ｸﾞﾗﾌﾞ容量 3.0m³	
	集積	ブルドーザ	15ｔ級	
	投入指示	潜水士船	D270PS型 3～5ｔ吊	

改定（令和８年度）

3）作業船組合せ

施工区分	作業内容	名称	規格	摘要
直接投入	投入指示	潜水士船	D320PS型 3～5ｔ吊	
積込・運搬	積込	クローラローダ	1.8～1.9m³	
	集積	ブルドーザ	15ｔ級	
	運搬	ダンプトラック	10ｔ積級	
海上運搬投入	積込運搬投入	ガット船	ｸﾞﾗﾌﾞ容量 1.8m³ ｸﾞﾗﾌﾞ容量 3.0m³	
	集積	ブルドーザ	15ｔ級	
	投入指示	潜水士船	D320PS型 3～5ｔ吊	

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

掲載頁：9節 裏込・裏埋工 P3-9-13

現行（令和７年度）

2）代価表

(1) 裏込材投入（直接投入）　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
裏込材		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/V	就業8H
雑材料				

(2) 直接投入以外の場合

②裏込材投入（海上運搬投入）　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
裏込材		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/V	就業8H
ガット船	ｸﾞﾗﾌﾞ容量 m³	〃	1,000×(1+W/100)/G	運8H／就10H
ブルドーザ	排出ｶﾞｽ対策型 15ｔ級	〃	1,000×(1+W/100)/D	標準運転時間
雑材料				

改定（令和８年度）

2）代価表

(1) 裏込材投入（直接投入）　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
裏込材		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/V	就業8H
雑材料				

(2) 直接投入以外の場合

②裏込材投入（海上運搬投入）　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
裏込材		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/V	就業8H
ガット船	ｸﾞﾗﾌﾞ容量 m³	〃	1,000×(1+W/100)/G	運8H／就10H
ブルドーザ	排出ｶﾞｽ対策型 15ｔ級	〃	1,000×(1+W/100)/D	標準運転時間
雑材料				

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

掲載頁：9節 裏込・裏埋工 P3-9-15

現行（令和７年度）

2）代価表

(1) 裏込均し（Ⅰ，Ⅱ）（陸上）　100 m²当り

名称	形状寸法	単位	数量 陸上施工	数量 海上施工	摘要
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) ｸﾛｰﾗ型 山積 0.8m³ (平積 0.6m³)	日		－	標準運転時間
クレーン付台船	ｔ吊	〃	－		運6H／就8H
引船	鋼D PS型	〃	－		運2H／就8H
普通作業員		人			
雑材料					

改定（令和８年度）

2）代価表

(1) 裏込均し（Ⅰ，Ⅱ）（陸上）　100 m²当り

名称	形状寸法	単位	数量 陸上施工	数量 海上施工	摘要
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) ｸﾛｰﾗ型 0.8m³	日		－	標準運転時間
クレーン付台船	ｔ吊	〃	－		運6H／就8H
引船	鋼D PS型	〃	－		運2H／就8H
普通作業員		人			
雑材料					

コメント

機械器具等損料改定に伴う変更

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

9節 裏込・裏埋工 P3-9-16

現行（令和７年度）

2）代価表

(1) 裏込均し（Ⅱ）（水中）　1日（　　m²）当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
① 潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1	－	就業8H
② 潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	－	1	就業8H
雑材料					

改定（令和８年度）

2）代価表

(1) 裏込均し（Ⅱ）（水中）　1日（　　m³）当り

名称	形状寸法	単位	数量		摘要
			単独潜水方式	2人潜水方式(交互)	
① 潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1	－	就業8H
② 潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	－	1	就業8H
雑材料					

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

9節 裏込・裏埋工 P3-9-17

現行（令和７年度）

２－６－２　施工方式

防砂シートは、原則として潜水士船で敷設する。ただし、敷設する防砂シートの質量等および現場条件（施工場所）により、クレーン類を計上することができる。

施工区分	クレーン類を必要としない場合		クレーン類を必要とする場合	
	名称	規格	名称	規格
陸上施工	潜水士船	D270PS型 3～5ｔ吊	潜水士船	D270PS型 3～5ｔ吊
			ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	（油）　ｔ吊
海上施工	潜水士船	D270PS型 3～5ｔ吊	潜水士船	D270PS型 3～5ｔ吊
	台船	鋼 100ｔ積	クレーン付台船	35～40ｔ吊
	引船	鋼D200PS型	引船	鋼D300PS型

改定（令和８年度）

２－６－２　施工方式

防砂シートは、原則として潜水士船で敷設する。ただし、敷設する防砂シートの質量等および現場条件（施工場所）により、クレーン類を計上することができる。

施工区分	クレーン類を必要としない場合		クレーン類を必要とする場合	
	名称	規格	名称	規格
陸上施工	潜水士船	D320PS型 3～5ｔ吊	潜水士船	D320PS型 3～5ｔ吊
			ラフテレーンクレーンまたはクローラクレーン	（油）　ｔ吊
海上施工	潜水士船	D320PS型 3～5ｔ吊	潜水士船	D320PS型 3～5ｔ吊
	台船	鋼 100ｔ積	クレーン付台船	35～40ｔ吊
	引船	鋼D200PS型	引船	鋼D300PS型

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

9節 裏込・裏埋工 P3-9-23

現行（令和７年度）

2）代価表

(1) 瀬取り投入(自積方式)　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
裏込材		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
クレーン付台船	ｔ吊	日	1,000×(1+W/100)/D	運4H／就8H
引船	鋼D　PS型	日	1,000×(1+W/100)/D	運2H／就8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/V	就業8H
雑材料				バケット損料を含む

注）1.W:材料割増率(%)
2.D:クレーン付台船１日当り排出量（扱い数量、m³/日）
3.V:１日当り投入量（扱い数量、m³／日）
4.数量は、小数3位四捨五入とする。

(2) 瀬取り投入(台船方式)　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
裏込材		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
クレーン付台船	ｔ吊	日	1,000×(1+W/100)/D	運6H／就8H
台船	鋼　500t積	日	1,000×(1+W/100)/D×2	就業8H
引船	鋼D450PS型	日	1,000×(1+W/100)/D	運2H／就8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/V	就業8H
雑材料				バケット損料を含む

注）1.W:材料割増率(%)
2.D:クレーン付台船１日当り排出量（扱い数量、m³/日）
3.V:１日当り投入量（扱い数量、m³／日）
4.数量は、小数3位四捨五入とする。
5.引船はクレーン付台船と同じ日数を計上し、台船はその２倍を計上する。
ただし、材料運搬距離の条件等で別途引船および台船の数量を決定する場合は、この限りでない。

改定（令和８年度）

2）代価表

(1) 瀬取り投入(自積方式)　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
裏込材		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
クレーン付台船	ｔ吊	日	1,000×(1+W/100)/D	運4H／就8H
引船	鋼D　PS型	日	1,000×(1+W/100)/D	運2H／就8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/V	就業8H
雑材料				バケット損料を含む

注）1.W:材料割増率(%)
2.D:クレーン付台船１日当り排出量（扱い数量、m³/日）
3.V:１日当り投入量（扱い数量、m³／日）
4.数量は、小数3位四捨五入とする。

(2) 瀬取り投入(台船方式)　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
裏込材		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
クレーン付台船	ｔ吊	日	1,000×(1+W/100)/D	運6H／就8H
台船	鋼　500t積	日	1,000×(1+W/100)/D×2	就業8H
引船	鋼D450PS型	日	1,000×(1+W/100)/D	運2H／就8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/V	就業8H
雑材料				バケット損料を含む

注）1.W:材料割増率(%)
2.D:クレーン付台船１日当り排出量（扱い数量、m³/日）
3.V:１日当り投入量（扱い数量、m³／日）
4.数量は、小数3位四捨五入とする。
5.引船はクレーン付台船と同じ日数を計上し、台船はその２倍を計上する。
ただし、材料運搬距離の条件等で別途引船および台船の数量を決定する場合は、この限りでない。

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

令和８年度　港湾請負工事積算基準　新旧対比表

9節 裏込・裏埋工 P3-9-23

現行（令和７年度）

(3) 瀬取り投入(二次投入方式)　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
裏込材		m³	1,000×(1+W/100)	
クレーン付台船	t吊	日	1,000×(1+W/100)/D	運6H／就8H
引船	鋼D　PS型	日	1,000×(1+W/100)/D	運2H／就8H
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/V	就業8H
雑材料				ﾊﾞｹｯﾄ損料を含む

注）1.W:材料割増率(%)
2.D:クレーン付台船１日当り排出量（扱い数量、m³/日）
3.V:１日当り投入量（扱い数量、m³／日）
4.数量は、小数3位四捨五入とする。
5.引船は、現場条件により計上することができる。

改定（令和８年度）

(3) 瀬取り投入(二次投入方式)　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
裏込材		m³	1,000×(1+W/100)	
クレーン付台船	t吊	日	1,000×(1+W/100)/D	運6H／就8H
引船	鋼D　PS型	日	1,000×(1+W/100)/D	運2H／就8H
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/V	就業8H
雑材料				ﾊﾞｹｯﾄ損料を含む

注）1.W:材料割増率(%)
2.D:クレーン付台船１日当り排出量（扱い数量、m³/日）
3.V:１日当り投入量（扱い数量、m³／日）
4.数量は、小数3位四捨五入とする。
5.引船は、現場条件により計上することができる。

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

9節 裏込・裏埋工 参考資料－１　直接投入以外の裏込材投入（陸上投入） P3-9-(2)

現行（令和７年度）

３）作業船組合せ

施工区分	作業内容	名称	規格	摘要
積込・運搬	積込	クローラローダ	1.8～1.9m³	
	集積	ブルドーザ	15ｔ級	
	運搬	ダンプトラック	10ｔ積級	
陸上投入	投入	クラムシェル	1.0m³	
	投入指示	潜水士船	D270PS型 3～5ｔ吊	

②裏込材投入（陸上投入）　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
裏込材		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
潜水士船	D270PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/V	就業8H
クラムシェル	1.0m³	〃	1,000×(1+W/100)/D	標準運転時間
雑材料				

改定（令和８年度）

３）作業船組合せ

施工区分	作業内容	名称	規格	摘要
積込・運搬	積込	クローラローダ	1.8～1.9m³	
	集積	ブルドーザ	15ｔ級	
	運搬	ダンプトラック	10ｔ積級	
陸上投入	投入	クラムシェル	1.0m³	
	投入指示	潜水士船	D320PS型 3～5ｔ吊	

②裏込材投入（陸上投入）　1,000m³当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
裏込材		m³	1,000×(1+W/100)	割増しを含む
潜水士船	D320PS型 3～5t吊	日	1,000×(1+W/100)/V	就業8H
クラムシェル	1.0m³	〃	1,000×(1+W/100)/D	標準運転時間
雑材料				

コメント

潜水士船の大型化による基準改定

10節 埋立工 P3-10-15

現行（令和７年度）

②陸上受枠設置・撤去　30m当り

名称	形状寸法	単位	受枠の高さ（H）			摘要
			0m	2m	4m	
笠木丸太	末口15cm×1.8m	m³	0.4			
杭丸太		〃	－	1.4	1.8	
筋違丸太		〃	－	0.4	0.5	
足場丸太	末口10cm×7.0m	〃	－	0.9		
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ	(㊎)25ｔ吊	日	－	0.6	0.6	標準運転時間
トラック	8ｔ積	〃	0.4	0.4	1.0	〃
型枠工		人	0.1	0.4	0.6	
普通作業員		〃	1.6	5.6	8.4	
雑材料						

改定（令和８年度）

②陸上受枠設置・撤去　30m当り

名称	形状寸法	単位	受枠の高さ（H）			摘要
			0m	2m	4m	
笠木丸太	末口15cm×1.8m	m³	0.4			
杭丸太		〃	－	1.4	1.8	
筋違丸太		〃	－	0.4	0.5	
足場丸太	末口10cm×7.0m	〃	－	0.9		
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝ	(㊎)25ｔ吊	日	－	0.6	0.6	標準運転時間
トラック	8ｔ積級	〃	0.4	0.4	1.0	〃
型枠工		人	0.1	0.4	0.6	
普通作業員		〃	1.6	5.6	8.4	
雑材料						

コメント

機械器具等損料改定に伴う変更